FIFPRO

# FIFPROアジア

## AFCアジアチャンピオンズリーグ
## 費用対効果分析レポート

～クラブ・選手にとっての現状と、今後のあるべき姿～

FIFPRO | PLAYER IQ RESEARCH

Power to the players.

# FIFPRO アジアについて

FIFPRO アジアは、FIFPRO国際プロサッカー選手会の支部の1つであり、アジア・オセアニア地域のプロサッカー選手の利益を代表する唯一の組織です。総勢6,000人以上の選手を代表するFIFPRO アジアは、以下の11のメンバー選手会で構成されています

# はじめに

プロサッカーの国際化の中で、アジアサッカーも急速に発展してきました。
これは間違いなく、努力を重ねてきた諸先輩方の成果であり、そのことについて、全ての関係者に、心から敬意を表したいと思います。

他方で、サッカーの商業化が加速する中で、国際マッチカレンダーはどんどん過密なものとなっており、今や、特に男子は、毎週のように、連戦や長距離移動を余儀なくされているのが現状です。中でもアジアの国際大会は、他の大陸連盟の管轄地域と違って、東西に広い地域で行われるため、時差と移動距離、移動コストが大きな負担になるという特徴があります。

アジア地域でAFCが主催する国際大会は、大きく分けて、各国の代表チームに関する大会（アジアカップやW杯予選）と、アジア地域のクラブに関する大会（現状のACL、AFCカップ、2024/25シーズンからのACL Eliteなど）がありますが、国際的にマッチカレンダーが過密になっていく中で、多くの移動と時差対応を迫られる選手の負担は、どんどん過大なものとなってきています。
前者については、アジアのトップ選手の多くが欧州でプレーするようになってきていることからの、移動、時差の負担の増加が深刻になってきていますし、後者については、選手の負担だけでなく、多くのクラブが、AFCからの旅費補助等ではまかないきれない費用を負担して、赤字で参加しているという現状があります。

こうした状況は、本当にサステナブルなものといえるでしょうか。
いかに、国際試合で戦うことが、選手やクラブにとって、刺激的、貴重な経験になるというメリットを考慮するとしても、参加するデメリットが上回るならば、そうした構造は長続きするものではありません。

今こそ、何がサステナブルな仕組みかを、全ての関係者がオープンに議論すべきタイミングではないでしょうか。
私たちが、今回、そうした議論のきっかけを提供すべく、現状の仕組みが本当にサステナブルといえるのかを、客観的に調査したいと思った動機はそこにあります。

今回のレポートは、TFGの協力のもと、客観的な観点から、各種データを元に、現状のACLのメリットとデメリットを分析したものです。結果は、私たちが当初予測していたように、メリットがデメリットを上回るとはいえない、ゆえにサステナブルな仕組みではない、というものでしたが、だからといって、アジアの未来が暗いわけではありません。むしろ、逆に、経済的にも重要性を増しつつあるこの地域こそが、今までの伝統にとらわれない新しいフォーマットを提示していくことは意義があることと思われます。

例えば、東西に広いアジアをひとくくりにして、地域トーナメントを行うことは、FIFAやAFCが作り上げた伝統的なフォーマットでしたが、他に、商業的にもっとも効率的なフォーマットはないのか、より負担が少なく、経済的にもメリットのある他のフォーマットはないのか、などの点が、プロサッカーのステークホルダーを巻き込んだ形で、議論されることが期待されます。

このレポートにも記されているように、多くの選手は、自分たちの声が国際マッチカレンダーの意思決定過程に反映されることを求めています。
伝統的なサッカー界のガバナンスの構造では、FIFAやAFCの意思決定は、各国協会のみが投票権を持ち、重要なステークホルダーである、リーグ・クラブ、選手の意見は、直接反映されてきませんでした。また、現状では、FIFAやAFCには、自らが主催する大会に参加しないクラブや選手を制裁する仕組みもあるので、クラブや選手は、そうした仕組みに対して、有効に自分たちの意見を反映させる手段を持つことができませんでした。

折しもこうした構造が、2023年12月21日の欧州司法裁判所の判決で、EU競争法違反として問題とされるようになり、これからは、FIFA、そしてUEFAのようなConfederationsは、伝統的な枠組みでの国際大会に代わる、全く新しい国際大会についても、よりオープンに「透明かつ客観的、非差別的で均衡のとれた基準」をもって、その可能性を考慮していく未来が訪れようとしています。

こうした流れは、すなわち、サッカー界の意思決定が、ヒエラルキーから、パートナーシップへと移行する未来を示しています。全てのステークホルダーが、パートナーシップの精神のもと尊重しあい、未来へのベストな道筋を議論していく時がきています。
たしかに、今までの大会方式や、意思決定の仕方自体も、サッカーの商業化がここまで進んでいなかったころからの、長年続いた文化、伝統であり、こうしたことを変えていくことは簡単ではないでしょう。また、人種、文化、言語も大きく異なる多様性豊かなアジア地域では、そうしたパートナーシップを築いていくことも簡単ではないでしょう。
しかし、だからこそ、取り組む価値があるのではないでしょうか。
多様性豊かなアジア地域で、信頼をもとに、ステークホルダーが未来をともに築いていければ、それは、他の地域のためにも、大きな社会的財産となるはずです。

このレポートにもあるように、多くの選手にとって、国際大会でプレーすることは喜びであり、そこにはお金に換えられない価値があります。しかしながら、現在、サッカーは著しく商業化しており、FIFAやAFCのように、選手を直接雇用者としての責任を負っているわけではない団体が、選手の稼働を求めていくことについても、サステナビリティが求められています。

このレポートが、全てのステークホルダーにとって、ポジティブな議論のきっかけとなり、みんなで、新しい未来への一歩を踏み出せることを切に願っています。

FIFPROアジア代表　山崎 卓也

# エグゼクティブ・サマリー

アジアサッカー連盟 (AFC) が管轄するアジア地域は、世界のサッカー界で最も文化的に多様で、地理的にも広い地域であり、それゆえの困難さがあります。しかし、同時に、多くのサッカーファンが存在し、強い国内リーグがあり、世界レベルの選手や監督を生み出す能力がどんどん高まってきているという特徴があります。

AFCチャンピオンズリーグ (ACL) は、そのようなアジア地域の強豪クラブの大会ではあるものの、そのポテンシャルを活かせずにいるのが現状です。

このレポートは、ACLが、アジアからの参加クラブ、選手に、その価値を十分に提供できていないという現状を明らかにするものです。端的にいえば、現状のACLは、選手とクラブの双方にとって、参加するためのコストが、それによって得られる利益を上回っている状態です。

このような中で、AFCは、ACLへの大幅な改革を発表しています。新しいACLは、AFCチャンピオンズリーグエリート (ACLE) として、2024/25年シーズンよりリニューアルされ、チーム数、試合構成、ファイナルラウンドの開催方法が大幅に変わります。

新しいACLについて、これまでAFCは、決勝進出2チームの賞金の増額などを発表していますが、詳細については、まだ発表されていない状況です。

したがって、このレポートでは、主に、現在進行中のACLについての分析を行っていますが、新しいフォーマットのACLが、今までのACLの問題点を改善するに足るものとなっているのかについても、可能な限りで、具体的なデータに基づいて分析を行っています。

その結果、得られた端的な結論としては、新しいフォーマットのACLも、これまで発表されている限りの情報に基づく限りは、今までのACLの問題点を改善するに足りるものとなっているとはいえない、または少なくとも、現時点では不明、ということになります。

このレポートでは、以上のようなACLの問題点を生み出す原因の大きな一つとして、現状のAFCの意思決定が、各国サッカー協会のみによって行われていること、すなわち、プロサッカーの重要なステークホルダーである選手やクラブの声が、直接意思決定に反映できる構造になっていないということにも言及しています。

それゆえ、本レポートでは、ACLが、すべての関係者にとって価値のあるものとなるべく、今後は、AFCが、国際大会の開催方式、日程に関する決定について、選手、クラブ・リーグと真のパートナーシップを確立し、十分な協議のもとに行っていく体制を作っていくことが必要であるということも提言しています。

サッカー選手は、もともと、本能的な性質として、なるべく高いレベルの試合をプレーしたいという欲求を持っています。従って、選手にとってこのような国際大会でプレーすることは、本来は、選手にとっても喜ばしいことと言えますが、本レポートでは、具体的な分析結果として、ACLは、選手に対して、金銭上はもちろんのこと、スポーツ上のメリットも、ほとんどもたらしていないことを明らかにしています。

例えば、金銭的なメリットの点でいえば、アンケート調査を行った選手のうち、ACLに関連する何らかの報酬を受け取ったと答えたのはわずか半数という結果であった一方で、72%の選手が、過密な試合日程と移動の負担で、怪我のリスクが高まったと感じたと回答しています。つまり、選手にとってACLへの参加は、メリットに比べて負担・コストが大きいということが分かります。

また、クラブにとっても、コストが大きな問題となっています。ACLの賞金は、決勝進出チームに大きく傾斜配分されており、それ以外のチームに対しては、アウェーで試合する場合にも、不十分な遠征補助金しか出ない状況です。またホームチームも、試合開催のために多額の費用を負担している状況です。

このレポートでは、ACL参加クラブからも個別にヒアリングを行っていますが、その結果によれば、AFCの「クリーンスタジアム(スタジアムの命名権を含む、既にスタジアムに存在する全ての広告を一掃しなければならないルール)」がクラブに大きな負担を課していることが明らかとなっています。もちろんホームチームには、チケット販売による収入がありますが、ACLグループステージの平均入場者数は、同じスタジアムで国内リーグの試合を行う場合よりも26%少ないため、利益を生み出すことはできない状況にあります。

つまり、ACLは、上位に残ったわずかのクラブ以外、赤字で参加している状況であり、そのことが選手のACLでのプレーに対して、十分な報酬を支払えない理由にもなっています。

また、このレポートでは、ACLは、スポーツ上のメリットという意味でも、十分なものをもたらしてはいないことを明らかにしています。分析の結果、現在のACLの平均的なチームのクオリティは、日本、韓国、サウジアラビアの各一部リーグよりも低い状況であり、また、ACLへの出場が、その後の選手のキャリアアップ(例えば欧州への移籍)や、クラブにとって高額な移籍金を得ることにつながる可能性も高くない状況です。それどころか、ACLへの出場が、国内リーグでのパフォーマンスに悪影響をもたらすという点が、選手とクラブから指摘されています。

以上により、現状のACLは、選手、クラブにとって、参加するインセンティブが働きづらい大会になっており、それゆえにさらなる投資の機会を呼び込むことも限定されている状況です。

なお、2024/25シーズンからのACLの新しいフォーマットによっても、現状明らかになっている情報に基づく限り、こうした問題点は解決されているとはいえない状況です。新しいフォーマットによれば、準々決勝、準決勝、決勝は、ホームアンドアウェーではなく、特定の開催地での集中開催になりますが、これにより、今までは各クラブのホームチームに与えられていた権益が、AFCの管理下になり、ホームチームが収益を得る機会が失われたともいえます。

この点を考慮すれば、AFCは、新しいフォーマットでのACLが、これまでより多くの価値を生み出し、かつ、その価値が、関係クラブに適正に分配されるという点を明確に示す必要があるといえます。

上記の分析に基づき、ACLは、UEFAチャンピオンズリーグのような形で発展していくことが可能なのか、あるいは、そもそも、全く別のフォーマットを検討すべきなのかという点が、今後の課題といえます。これは必ずしも解決が容易ではない課題ですが、パートナーシップの精神から、アジアのサッカー利害関係者が互いに協力することによってこそ、そうした問題への正しい対処ができるものといえます。

# CONTENTS


09 本レポートについて

10 調査方法

12 ACLの現状（旧フォーマットと新フォーマット）

14 旧フォーマットの分析

- 選手への影響
- クラブへの影響
- ACLの旧フォーマットの分析

37 新フォーマットの分析

- 新しい大会の構成
- ステークホルダーへの影響

47 今後の改善方法

# 本レポートについて

AFCチャンピオンズリーグ (ACL) は、1976年に創設され、アジアの男子クラブサッカーの最高峰の大会となっています。アジアサッカー連盟 (AFC) が独占的に運営してきたこの大会は、AFCが示す、以下のビジョンの重要な一要素となっています。

- AFCが、世界レベルの連盟になること
- アジアのチームが世界の舞台で成功できるようにすること
- サッカーを、アジアでナンバーワンのスポーツにすること

FIFPROアジアと、そのメンバーである各国の選手会も、こうしたビジョンには賛同しています。つまり、その意味で、AFCとFIFPROアジアは、同じ目的を持つパートナーであるといえます。

しかしながら、これまで、FIFPRO アジアとAFCの間では、アジア最高峰のクラブ大会について、建設的なパートナーシップを持つ機会がありませんでした。

このような状況のもと、FIFPRO アジアは、今後のパートナーシップに基づく様々な協議に備えるべく、プロフェッショナルな形で、ACLの現状を、客観的なデータをもとに分析するという、今回のプロジェクトを行った次第です。

このレポートは、スポーツにおける大手の調査会社であるトゥエンティ・ファースト・グループ (TFG) によって行われた専門的で独立した分析を用い、その上で、ACLの参加選手と参加クラブからの現実のフィードバックを組み込んで作成されました。おそらく、これまでの歴史の中で行われたACLの分析の中でも、最も包括的な分析と思われます。

このレポートの目的は、現状のACLについて、主にクラブ・選手にとっての費用対効果という観点から、具体的なデータに基づいて、本当にクラブ、選手にとってメリットがデメリットを上回っている大会と言えるのかという点を、分析するとともに、AFCが発表している2024/25シーズンからの新フォーマットの導入よって予想される変化について検討することです。

この調査を行うにあたって、FIFPROアジアは、AFCの情報提供等の協力を求めましたが、残念ながらその協力は得られませんでした。したがって、本レポートは、ACLに関する、収入、利益などの商業上のデータを、AFCから得られない状況で作成されました。スポーツ上のメリット・デメリット（試合の質や戦力均衡等）、観客動員数とファンエンゲージメント、クラブと選手が得られる経済的メリットと、その反面での経済的デメリット（試合開催費用だけでなく、過密日程や移動に伴う怪我のリスクの増加などを含む）が分析の対象となっています。

AFCは現在、ACLと、そのもう一つ下の階層のクラブ国際大会として、AFCカップを運営しています。2024/25年シーズンからは、この階層構造は、ACLエリート、ACL2、AFCチャレンジリーグという3階層体制となります。今回の調査対象は、現状のACL（新フォーマットでいうACLエリート）のみですが、この階層のうち、一番上の階層（ACL）で問題があるということは、その下の階層については、そうした問題は、おそらくより深刻な形で存在することが推測されます。

FIFPROアジアは、こうした専門性の高いレポートを出すことにより、サッカー界における信頼に足るプロフェッショナルとして、AFCを含むステークホルダーから信頼され、そこから生まれる対話によって、よりよいアジアサッカーの実現に貢献していくことを、究極の目的としています。このレポートが、アジアサッカーにおけるステークホルダー間における、対話を中心としたパートナーシップの樹立に貢献することを期待しています。

FIFPRO | PLAYER IQ RESEARCH

# 調査方法

## 調査パートナー

今回の調査は、スポーツ界における大手の調査会社であるトゥエンティ・ファースト・グループ (TFG) の大規模な協力のもとに行われました。

今回、TFGがこのレポートのために行った分析においては、以下の方法が採用されています

### 1. クラブチームのパフォーマンスランキング:

TFGは「ワールド・スーパー・リーグ」という、全世界のサッカークラブのスポーツ上のパフォーマンスのランキングを、機械学習アルゴリズムを使用して算出するシステムを持っており、今回のレポートでも、それが、ACL参加クラブの質、それによる試合の質がどのレベルのものであるかを算出するための方法論として使用されています。

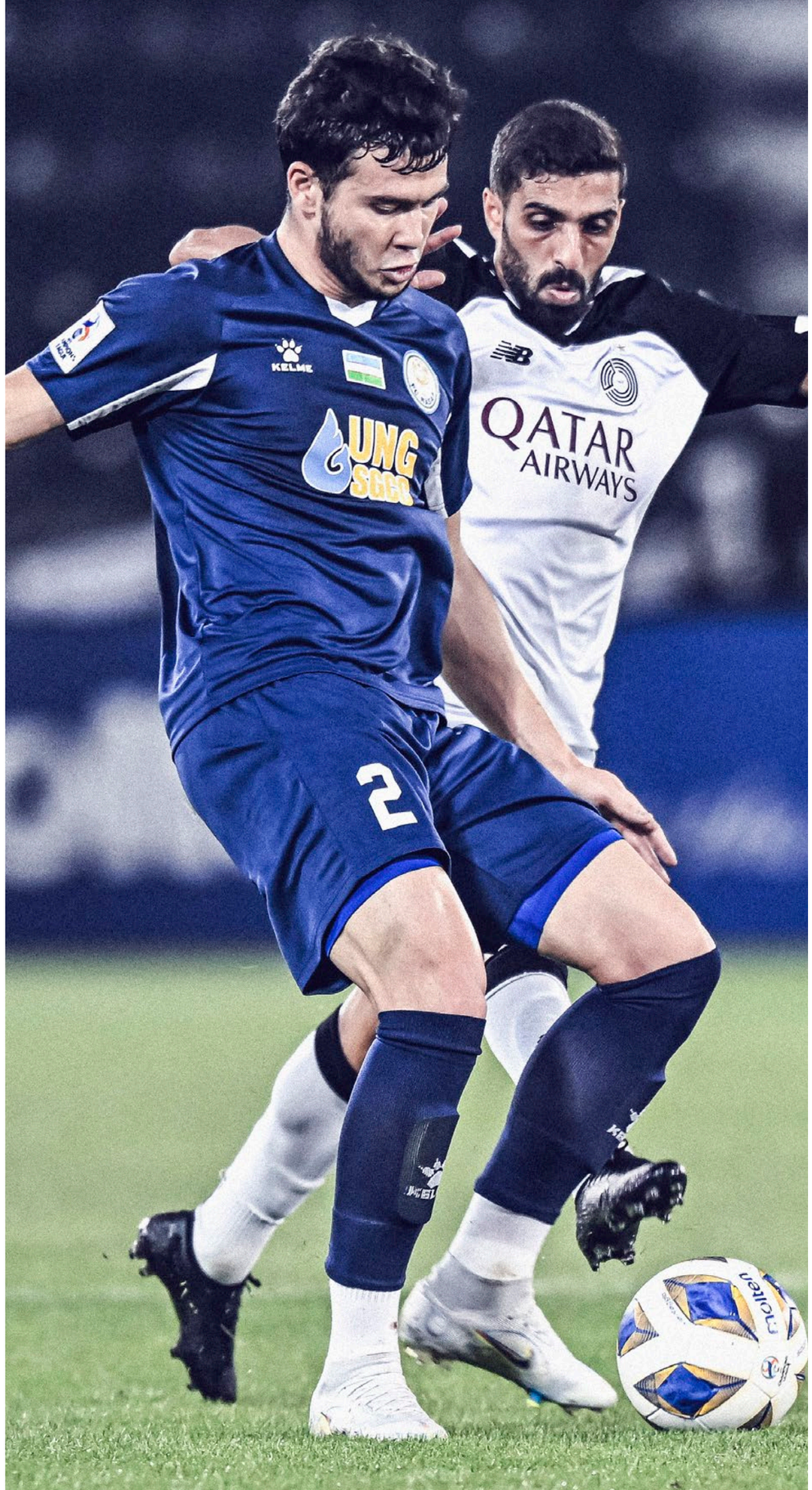
### 2. シミュレーション:

また、TFGは、上記のクラブのパフォーマンス評価をもとに、大会の構造(本件ではACLのフォーマット)を反映した形で、システムを用いて、当該フォーマットに基づく各試合を1,000回戦わせるというシミュレーションを行いました。このシミュレーションは、まだ世の中に存在しない試合形式、大会方式についても行うことが可能であり、それゆえ、新しい大会が企画された場合に、本当に想定通りの結果となるのかどうかのシミュレーションを行うことも可能な仕組みです。

### 3. インサイト:

そしてTFGは、上記のシミュレーション結果に基づき、対象となる大会(本件ではACL)の試合の質、勝敗の予測不可能性、戦力均衡度を算出した上で、現存する他の大会(他地域の同様の大会など)との比較を行っています

なお、大会が生み出す収益などに関するデータを入手するため、AFCとフットボール・マーケティング・アジアに、本調査プロジェクトへの協力を依頼しましたが、残念ながら協力が得られませんでした。従って、このレポートは、ACLに関連するスポンサー収入、放映権収入などのデータへのアクセスが制限された状態で作成されています。






## 選手へのアンケート調査

本レポートでこのシンボルが表示されている箇所では、FIFPROアジアのメンバーである選手会の会員選手へのアンケート調査の結果が示されています。このアンケート調査は、2020年から2022年の間にACLに参加した、5リーグ15クラブ、59人の選手の協力を得て行われたものです。なお対象選手は、ACLの東地区のグループリーグに参加したクラブの所属選手であり、調査は、2023年の下半期に行われました。

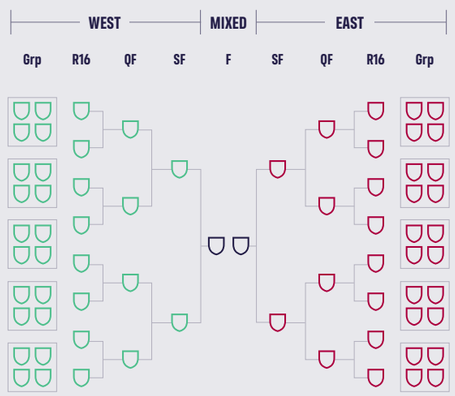
## 参加クラブからのフィードバック

本レポート作成にあたっては、ACLに参加したクラブのうち、Aリーグ (オーストラリア) とJリーグ (日本) に属するクラブから、調査への協力を得られ、以下に関するACLでの具体的経験をご共有いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

- AFCから受領する賞金額や遠征に関する補助金といったACL参加に関する金銭的条件
- 試合開催に関しての費用その他の課題;
- ACL参加がもたらす、国内リーグの試合、順位、パフォーマンスへの影響
- ACL参加によって得られる、スポーツ上の効果

# ACLの現状（旧フォーマットと新フォーマット）

AFCが発表したACL改革の概要

| | 2023-24 | 2024-25 |
|---|---|---|
| Competition Format | 40 Clubs | 24 Clubs |
| | Regional Groups and Bracket | Regional Leagues and Round of 16 |
| | Two-leg Final | Centralised Bracket |
| |   | |
| Key Details | Winner Prize Money: $4m | Winner Prize Money: $12m |
| | Runner-up Prize Money: $2m | Runner-up Prize Money: $6m |
| | 5+1 Foreign Player Quota | No Foreign Player Quota |
| | | New Club Competition Ranking and Slot Allocation |
| | | More Changes TBC |
| Supplementary Competitions* | AFC Cup<br>36 Clubs | AFC Champions League 2<br>32 Clubs |
| | | AFC Challenge League<br>20 Clubs |

*Not included in our research

# 旧フォーマットの分析

今回の調査の結果、現状のACLのフォーマット（以下、2024/25シーズンから導入されるフォーマットを「新フォーマット」、現状のフォーマットを「旧フォーマット」とします）は、選手にとっても、クラブにとっても、その参加のデメリットがメリットを上回る状態であり、参加選手やクラブに十分な価値を提供しているとはいえない、ということが明らかとなりました。もちろん、国際大会参加に伴って得られる名声という点はあるとしても、実際に、スポーツ上、金銭上のメリットは十分ではなく、むしろ、マイナスの影響も存在する状況です。

以下、このセクションでは、ACLの旧フォーマットにおける、選手とクラブにとっての費用対効果分析、メリット・デメリットを分析します



## 選手への影響

選手にとって、ACLに参加することによって得られるメリットとして、本来期待されることは、アジアのクラブサッカーの頂点で戦えるということ、そして、そこでの良いパフォーマンスが、その後のキャリアにプラスになるということです。

逆に、デメリットとしては、アジア大陸が広大であることから、長距離移動とそれに基づく過密日程の負担があげられます。ACLは通常、国内リーグの試合と試合の間、週半ばに行われるため、特に長距離移動を伴う場合は、選手がACL、国内リーグすべての試合で最大限のパフォーマンスを発揮することは必然的に困難となります。このことは、パフォーマンス低下だけでなく、怪我のリスク増加という結果も生み出します。

以下では、上記のようなメリットとデメリットの状況を、根拠とともに検討します。コストないしデメリット以上のメリットが得られない場合は、ACLは、選手にとって持続可能な大会ではないということになります。

**選手の潜在的メリット:**
アジアのクラブサッカーの頂点で戦えるということ

この点に関し、ACL参加選手からの実際のアンケート調査では、例えば、Aリーグ選手の大多数 (82%) は、ACLについて「チャンス」であり、「プレーしたい」大会だと考えているという結果が出ています。出る価値がないと答えている選手は少数にとどまっています。

このことは、サッカー選手が、一般的に可能な限り高いレベルでプレーし、できうる限り最高の対戦相手に対して自分を試したいと思っているということの表れです。つまりACLへの出場は、国内でおさめた成功の結果であり、選手にとって誇りや報償といえる性質を持っているといえます。

この点からすれば、こうした国内リーグの勝者たちが戦う大会を行うという基本コンセプト自体は間違っていないどころか、今後、FIFAクラブワールドカップの参加資格が、各地域で行う国際クラブ大会の勝者という形で続けられるとすれば、選手が、よりACLに熱意を持って参加することも期待できるといえます。

**選手の潜在的メリット:**
ACLに出ることに対する金銭的見返り

ACLの参加については、選手が、AFCから直接報酬をもらう仕組みになっていないため、所属クラブからボーナス（勝利給、賞金の分配など）などをもらわない限りは、金銭的メリットはないことになります。

この点に関するアンケート調査では、選手の半数は、ACL出場に関して、何らかのボーナスを受け取ったと回答しています。典型的には、ACL出場権獲得や、勝利給などの形での固定の金額でのボーナスで、何らかの報酬を受け取ったと回答した選手の76%が、この形でのボーナスを受け取っています。報酬を得た選手のうち、3分の1は、事前に合意された賞金の分配を受け取っていました。

なお、こうした報酬を受け取っているかどうかは、所属するリーグによって大きく異なっています。例えば、Aリーグの選手は、4分の1の選手のみが追加の報酬を受けとったと答えていますが、Jリーグの選手は、半分以上 (56%) の選手 が報酬を受け取ったと答えています。

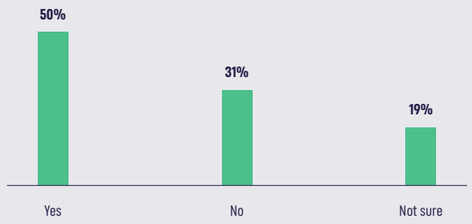
ただし、こうした報酬額について、十分な額であると考えている選手は、必ずしも多くない状況であり、報酬額に満足していると答えた選手は、全体の54%にとどまっています（報酬を受け取ったと答えた選手の中では、62%）。

また、自分が受けた報酬は正当だったと感じている選手の69%は、報酬によって個人的にモチベーションが上がったと答えており、正当な報酬と感じていない選手については、報酬によってモチベーションが上がったと答えた選手は、38%に留まっています。

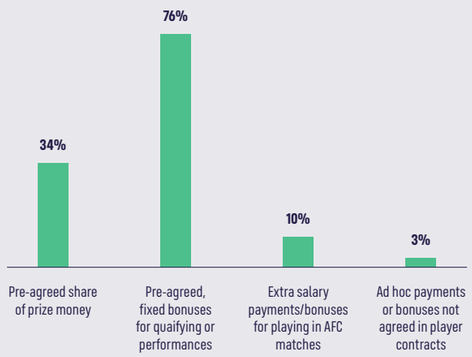
後に、「クラブへの影響」のセクションで分析するように、そもそも参加クラブすら、多くのクラブが赤字で参加している現状からすれば、この問題は、そもそも、ACLを主催するAFCが、選手の提供する労働価値、という観点から十分な金銭の支払いを行っていないということを示しているといえます。

## 選手へのアンケート調査

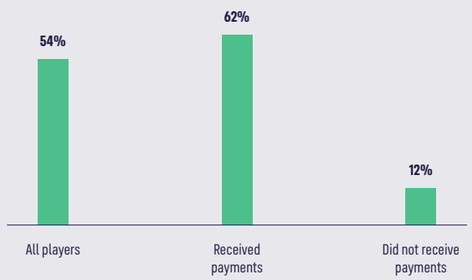
*Did your club pay players any additional salary or bonuses for playing in the competition?*




***Payment types for those who received*** *(can be more than one for each player)*




*Do you think you were fairly renumerated for playing in the competition?*






**選手の潜在的メリット:**
ACLでプレーした結果としてのキャリアアップ

理論的には、ACLに参加することで、選手がより良いクラブに移籍する可能性が高まったり、国の代表チームメンバーに選出される可能性が高くなったりすることがあり得ます。

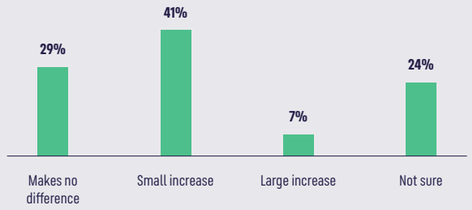
この点、選手からのアンケート調査では、86%が、ACLでの経験が選手としての成長にプラスの影響を与えたと回答しています。また半数強 (56%) が、自身の移籍の可能性にプラスの影響を与えたと回答し、さらに、約半数が、ACLでプレーすることで、国の代表チームでプレーする可能性が少し (41%) あるいは大きく (7%) 高まったと回答しています。

## 選手へのアンケート調査

*What impact do you think playing in the ACL club competition had on your development as a player?*

*What impact do you think playing in the ACL club competition had on your perceived transfer value?*

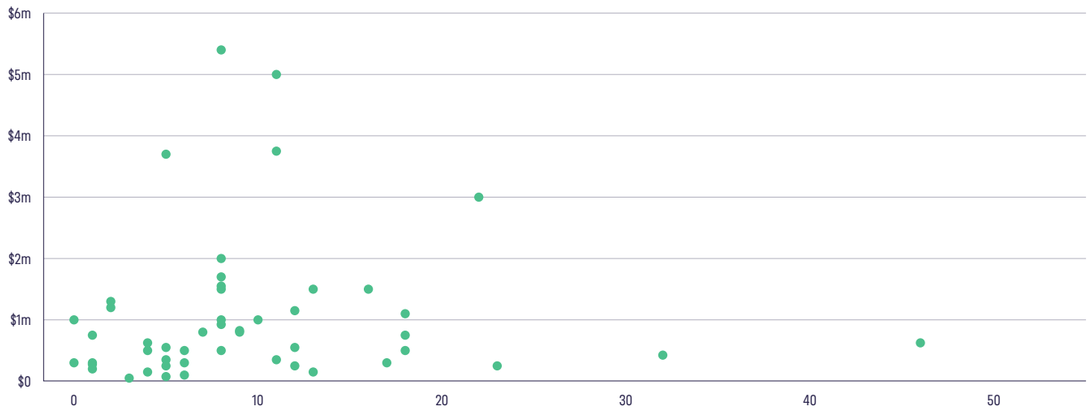
*To what extent do you think performing well in the ACL club competition increases your chances of National Team opportunities?*



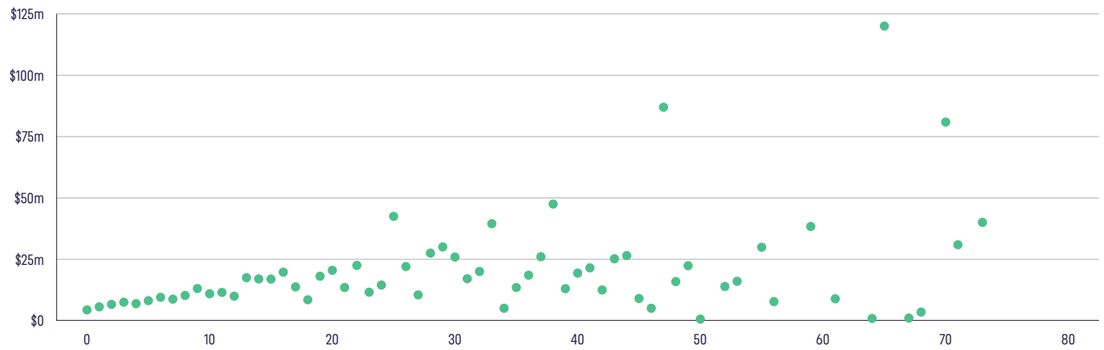
しかし、こうした選手たちの認識は、データによっては裏付けられていません。TFGの分析 (トランスファー・マルクトのデータを使用) では、ACL出場回数と移籍金の金額の間には、明確な相関関係は認められませんでした(なお、UEFAチャンピオンズリーグでのプレー経験と移籍金額の間には正の相関関係がある)。

また、ACLの経験がある選手が、他のAFC域内の選手より、欧州クラブに移籍できる可能性が高くなるということも裏付けられませんでした。TFGは、AFC所属クラブからの、2013年以降の全移籍を調べたところ、ACLの経験がある選手の28%が欧州クラブに移籍した一方で、ACLの経験がない選手は、35%が欧州クラブに移籍しています。

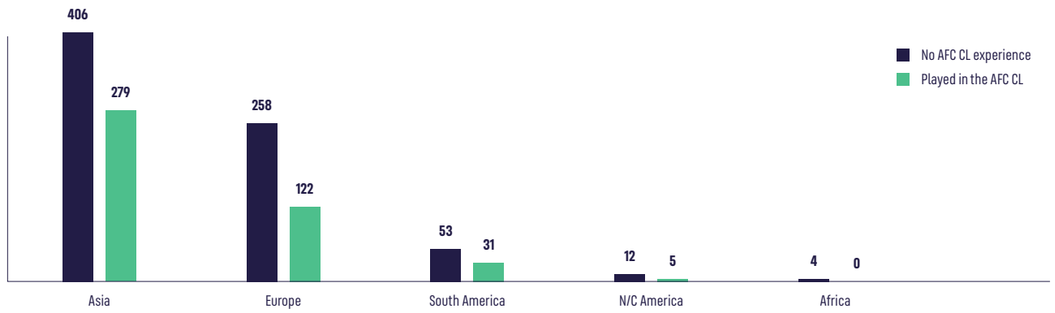
**Historic player transfer values ($m) vs number of AFC CL caps**




**Historic player transfer values ($m) vs number of UEFA CL caps**




**Number of transfers from Asian clubs since 2013 (loans excluded), by region of destination club**






**選手の潜在的コスト:**
選手のコンディション、パフォーマンスへの悪影響

ACLは、アジアの広大な地域の、長距離移動や時差の負担を強いるため、選手のコンディション、パフォーマンスに悪影響があることが、データによって示されています。

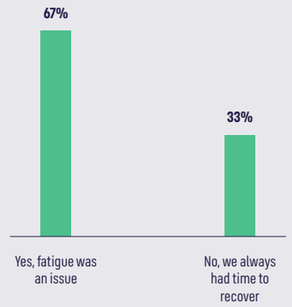
選手に対するアンケート調査では、実に、3分の2の選手が、ACLの試合後の国内試合で、疲労によるパフォーマンスへの悪影響を感じたと回答しています。また、それをやや上回る72%の選手が、ACLによる過密スケジュールが、怪我のリスクを増加させると感じていると答えています。

なお、TFGの分析では、ACL後の国内の試合では、その直前に行われたACLの試合に比べて、先発メンバーのレギュラー選手11名のうち、平均2人が変更されていることが明らかとなっています。つまりこれは、クラブが、ACLの負担のために、選手を休ませ交代させざるを得ないことを示しています。

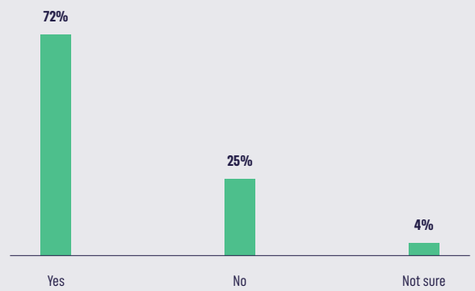
旧フォーマットにおける、ACLグループステージのアウェイゲームの平均移動距離は3,670kmであり、しかも、AFCから提供される遠征補助金では、エコノミークラス以上のフライトを賄うことができない状況です。従って、長距離移動にもかかわらず、選手の多くはエコノミークラスで移動しており、これが、選手のコンディション、パフォーマンスへの悪影響につながっていると言えます。

## 選手へのアンケート調査

*Did you or your team ever feel too fatigued to perform at your best for a league fixture immediately after an AFC club competition fixture?*




*Did you ever feel at risk of injury due to the time between games and/or travel requirements?*



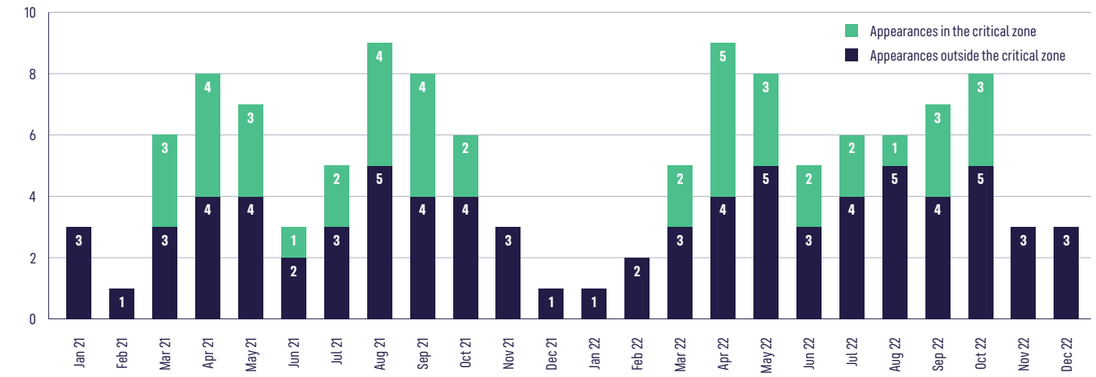
また、ACLは、選手が「クリティカルゾーン」でプレーする時間を長引かせる要因になっています。「クリティカルゾーン」とは、FIFPROの定義では、試合と試合との間に休息日が5日未満の状態で、2試合で45分以上プレーすることですが、これをケーススタディで調査するため、TFGは、2021年と2022年に、蔚山現代のチョ・ヒョヌ選手とFCソウルのキ・ソンヨン選手がクリティカルゾーンで過ごした時間を分析しました（グラフ参照）。

両年ともACLに出場したチョ・ヒョヌ選手は、シーズンの約半分をクリティカルゾーンで過ごし、ACLとKリーグが共にクライマックスを迎えた9月には、ピークの70%~80%に達しています。チョ選手はGKなので、フィールドプレイヤーとは状況が異なるかもしれませんが、出場時間に変動がないことが問題の核心を物語っているといえます。

なお、（より広範なデータが入手可能な）欧州サッカーを分析した結果、TFGは、前シーズンと比較した試合負荷の増加と、怪我により離脱した時間の間に、直接の因果関係があることを発見しています。選手のシーズンの試合数が、前シーズンに比べて11試合増えた場合、怪我により離脱する期間は、平均50%増えています。

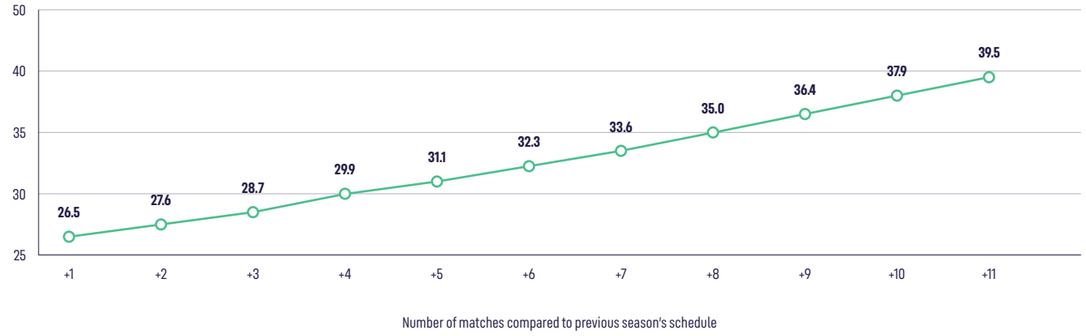
**% of minutes in the 'critical zone', Jo Hyeon-Woo** (K League 1, Korean FA Cup & AFC CL) **vs Ki Sung-Yueng** (only K League 1 & Korean FA Cup)

**Number of appearances made in / out of critical zone, Jo Hyeon-Woo** (2021 & 2022)






**Average days European-based players missed through injury by additional number of fixtures compared to previous season** (2016/17 - 2022/23)




## 結論

参加する大会が増えるということは、当然、選手にとっての負担（コスト）が増えることを意味するものですが、ここで重要なのは、果たしてコストを上回るだけのメリットが得られているかどうかという点です。

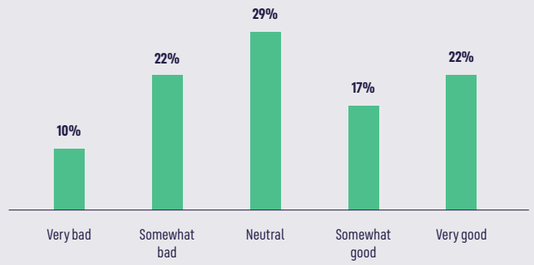
しかし、この点については、分析の結果、旧フォーマットにおけるACLは、金銭的な報酬という意味でも、選手としてのキャリアアップという意味でも、選手にほとんどメリットを与えていない状況です。選手の年俸は、基本的に、選手の国内リーグのパフォーマンスによって決められるものであることを考えると、ACL参加が、国内リーグのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があるということは、持続可能性という意味で、深刻な問題であるといえます。

つまり、ACLは、アジアのクラブサッカーの頂点としての意味はあるものの、実際に、参加コストが、それによって得られるメリットを上回るという不健全な状態といえます。

なお、選手のアンケート調査において、ACLでのプレー経験は、いいものだったか、悪いものだったかを質問したところ、悪いものだったと答えた選手は32%、いいものだったと答えた選手は39%、どちらでもないと答えた選手は29%という状況でした。

## 選手へのアンケート調査

*What was your overall experience in the competition?*



# クラブへの影響

次に、ACLへの参加による、クラブのメリット・デメリットについて、費用対効果の観点から分析します。このセクションでは、旧フォーマットの下でのクラブへの影響を分析します。

まず冒頭で指摘しておくべき重要な点は、クラブは、ACLについて、現在の規定上、出場することが義務であり、出場しないという選択肢が与えられていないということです。すなわち、国内リーグまたはカップ戦で参加資格を得た場合は、クラブにはACLに出場する義務が発生し、AFCのチャンピオンズリーグ大会規則(第5項) では、出場資格を得ながらACLを棄権したクラブに対しては、AFC懲戒・倫理委員会での審理のもと、罰金や、2年間のAFC大会出場停止、AFCまたは他のクラブへの金銭補償という罰則を受ける可能性があると規定されています。

つまり、クラブは、AFCが定めた条件にしたがって、ACLへの出場義務を負う反面で、クラブが負担する参加費用については、AFCは十分な補償をする義務がないというのが現状です。こうした状況は、AFCの意思決定が、メンバーである各国サッカー協会のみによって決められ、クラブの意見を反映させられる構造になっていないことにも起因していると思われます。

**クラブの潜在的メリット:**
アジアサッカーの頂点で戦うということ

クラブも、選手と同様、可能な限り高いレベルで戦いたいと望むものですし、ACLは、その意味で、地域のエリートクラブと対戦する機会を提供しており、また、FIFAクラブワールドカップ出場権獲得という意義もあるので、その点に関しては一定のメリットがあります。

メリットは大きく2つあると考えられ、一つは、アジアのクラブサッカーの頂点であるACLでの成功によってクラブの地位が向上するということ、もう一つは、質の高い相手と対戦することで、クラブのパフォーマンス・経験値向上の期待ができること、です。

ただし、旧フォーマットでは、参加クラブ数をかなり増やしたことにより、試合の質が相対的に低下したため、このメリットは、限定的なものとなっています。

この点、TFGの、ワールド・クラブ・ランキングモデルの分析によれば、ACLグループステージにおける参加クラブの平均的な質は、CAFチャンピオンズリーグ (16クラブのみが参加) の平均的なクラブより低いという結果になっています。

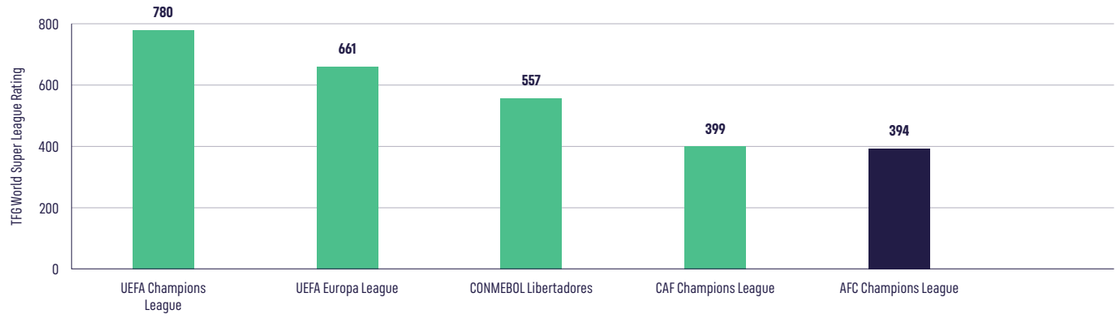
そして、ACLは、試合の質という意味では、日本のJ1リーグ、韓国のKリーグ1、サウジアラビアのプロリーグに次いで、アジアで4番目という位置づけであり、アジア最高峰であるにもかかわらず、上記3つの国内リーグよりも劣るクオリティの大会になっています。つまり、この3つのリーグに所属するクラブにとっては、概して、国内の他のクラブの方が、ACLの対戦相手よりも質が高いといえる状況にあり、こうした傾向は、昨今のサウジアラビアリーグの成長を含む、国内リーグの発展を考えれば、さらに増してきているともいえます。

このことは、選手へのアンケート調査の結果によって裏付けられています。ACLに出場したことのあるJ1リーグの選手のうち、国内リーグよりもレベルが高いと感じたのはわずか6%で、26%はレベルが低いと答えています(54%はレベルの高いチームと低いチームが混在していると回答)。TFGの分析では、オーストラリアのAリーグは、ACLよりも平均的な質がやや低いとの評価になっていますが、現に、Aリーグの選手の73%は、アンケート調査で、ACLは、国内大会よりもレベルが高いと回答しています。

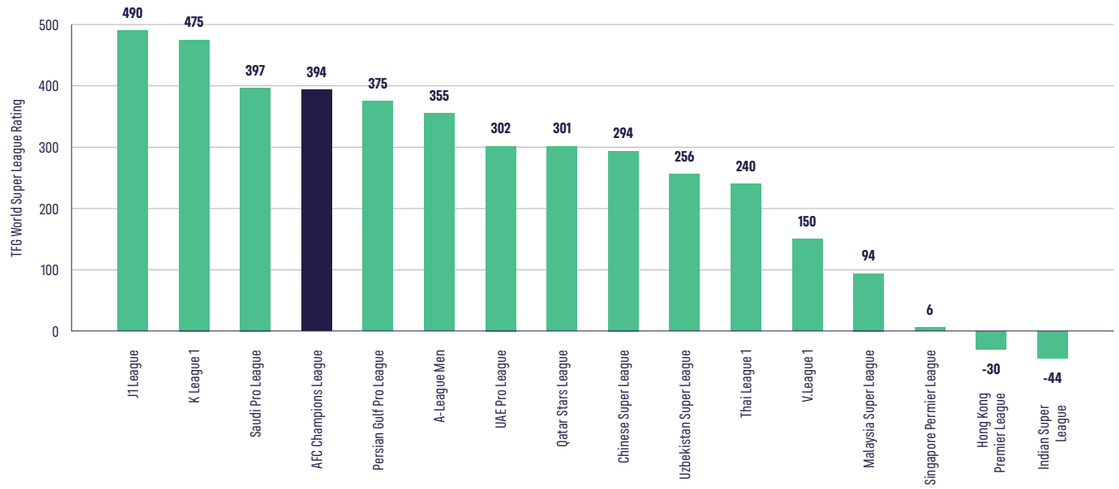
TFGの分析では、準々決勝進出チームの平均的な強さを考慮すると、ACLがCAFチャンピオンズリーグや、CONCACAFチャンピオンズ・リーグよりも質が高いと指摘しており、グループステージを終えて次のステージに到達する限りは、各クラブは、かなりレベルの高い試合を経験できるものといえます。とはいえ、現状、これらベスト8のクラブが参加する試合は、旧フォーマットACLの全試合の6%に過ぎない状況です。



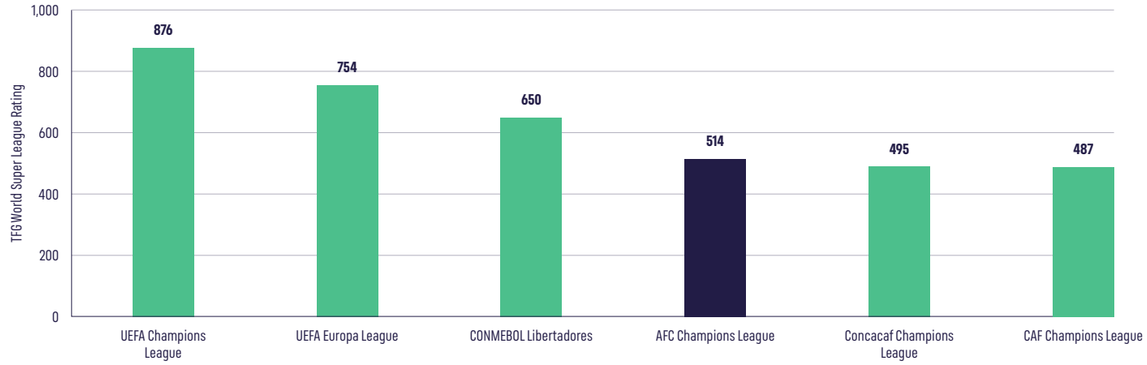
**Average quality of teams in the group stage of continental competitions**




**Average quality of Asian domestic leagues vs AFC CL, 2023**




**Average quality of teams in the quarter-final stage across continental competitions, using TFG's WSL rating to denote quality**



**クラブの潜在的メリット:**
経済的なメリット (賞金など)

ACLには、優れた成績を残したクラブに対する賞金がありますが、金額は少ないものとなっています。2023/24シーズンでは、約700万ドルが支払われましたが、CAFチャンピオンズリーグは1000万ドル、コパ・リベルタドーレスは1億400万ドル、UEFAチャンピオンズリーグは5億8500万ドルという状況です(金額は米ドル) 。

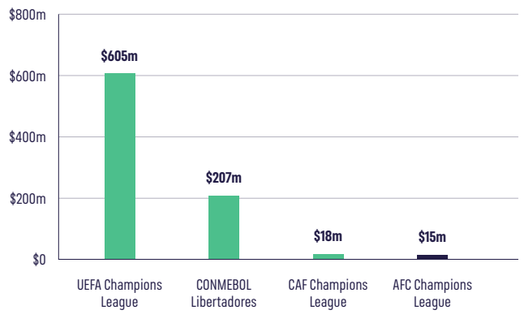
しかも、ACLの賞金の大部分 (86%) は、優勝クラブ(400万ドル) と準優勝クラブ (200万ドル) に割り当てられ、残りの参加クラブには、ほぼ勝利ボーナス (5万ドル) と引き分けボーナス (1万ドル)しか分配されない状況です。なお、例えばUEFAチャンピオンズリーグでは、優勝、準優勝クラブへの賞金は、全賞金総額の21%にすぎません。

加えて、AFCは、「優勝、準優勝クラブそれぞれが申し出た社会責任活動に資金を提供する」ため、優勝、準優勝クラブの賞金 (総額350万ドル) の5%を、ドリームアジア財団のために拠出することを義務づけている状況です。

上記とは別に、ベスト16、準々決勝、準決勝に出場したクラブは、それぞれ10万ドル、15万ドル、25万ドルの「参加費」を受け取りますが、グループリーグで全敗、または予選プレーオフで敗退したクラブは、賞金も参加費も受け取ることができない状況です。

このように賞金とボーナスの配分が、上位クラブに極端に偏っているため、ACLからの金銭支給は、一部の強豪国に集中しているのが現状です。TFGのシミュレーションでは、賞金の74%が日本、サウジアラビア、韓国、イランのチームに支払われていると考えられます。

**Total prize purse for continental club competitions in 2022-23**




**ACL prize money distribution**

| TYPE | ACHIEVEMENT | AMOUNT (US DOLLARS) |
|---|---|---|
| Prize Money | Winner | $4,000,000 |
| | Runner-up | $2,000,000 |
| Participation Fee | Semi Finals | $250,000 |
| | Quarter Finals | $150,000 |
| | Round of 16 | $100,000 |
| Performance Bonus (not including Final) | Win Bonus | $50,000 |
| | Draw Bonus | $10,000 |

**Average prize money per domestic league** (based on TFG simulation)

**クラブの潜在的メリット:**
スポンサー収入等、商業上のチャンスの増加

本来なら、ACLは、クラブが、さらなるスポンサー収入などを得る機会になることが期待されるはずですが、現実に、そのような機会が得られる可能性は、極めて限られています。

この要因には、ACL自体への関心の低さと、いくつかの構造上、規則上の制限があります。

例えば、シドニーFCからの話では、大会に向けて、ユニフォームの胸スポンサーを確定するのが難しかったとのフィードバックが得られています。これは、ACLの組み合わせ抽選が、実際の試合日程に非常に近接したタイミングで行われる関係で、そこから、実際に決まった対戦国のマーケットにあわせたスポンサー営業が難しいという事情に基づいています。

また規則上の制限としては、AFCが課す、いわゆる「クリーンスタジアム」規定の問題があります。AFCの規則では、ACL参加クラブは、AFCの承認を受けたパートナー以外のあらゆるブランドを排除した、「クリーンなスタジアム」 の提供が義務づけられています。これにはスタジアムの看板広告を一掃することはもちろんのこと、さらに、非常に細かいところ、言い換えれば、そこまでやる必要はないのではというところまで含まれます。例えば、水のボトルのラベルを剥がす、バックパックのロゴを覆い隠す、スポーツドリンクのボトルキャップのブランド名を隠す、といったことまで求められています。シドニーFCは、こうした制限は「ばかげている」 と述べており、こうしたクリーンスタジアム規定に基づく対応費用は、メルボルン・シティFCによれば、グループステージ3試合合計で24万豪ドルと見積もられています。

**クラブの潜在的メリット:**
試合日のチケット販売 の増加

ACLは、アジア最高峰の大会として、魅力的な試合であることが期待され、それゆえに高い集客力も期待されるところですが、現実はそうでないことがデータによって証明されています。ACLグループステージの平均観客動員数は、同じスタジアムで行われる国内リーグの試合よりも26%少ない状況です。これは、UEFAチャンピオンズリーグのグループステージの平均観客動員数が、同じスタジアムで行われる国内リーグの試合よりも7%多いことと対照的です。

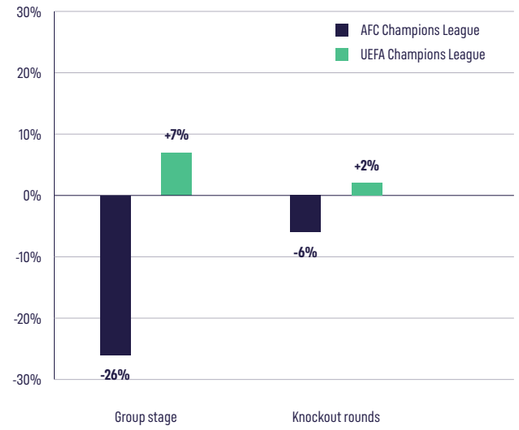
ちなみに、ACLの決勝トーナメントでさえ、平均観客動員数は、リーグ戦の試合より6%少ない状況です。

この点、週の半ばに行われるという日程が、観客動員数の少なさにつながっているとの指摘もありますが、それは、UEFAチャンピオンズリーグについても同様なので、ここでの真の問題は、やはり、ACLに関するファンの関心、対戦相手の認知度の少なさにあるといえます。

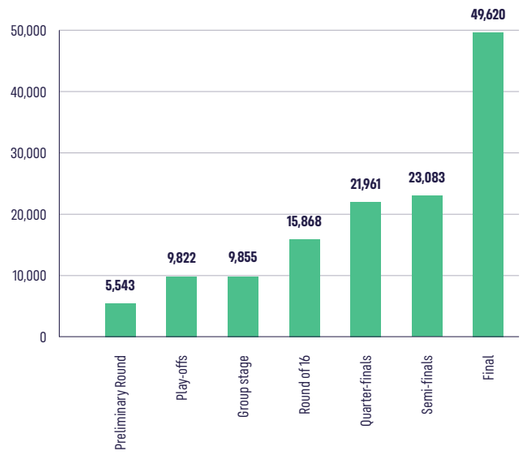
ACLの平均観客動員数は、トーナメントが進むにつれて増加していきます。2016年以降のグループステージの平均観客数 (ただし、コロナの影響を受けた2020年と2021年のシーズンを除く) は9,855人でした。ラウンド16になると15,868人に増加し、準々決勝と準決勝では2万人を超えます。

これは、ステージが上がるにつれて、ファンの関心が高まっていくことが要因ともいえますし、決勝トーナメントの出場クラブが、人気クラブであることが要因ともいえますが、いずれにせよ、上記のような国内の試合との比較は、ACLの現状を把握するにあたって重要な観点と言えます。

**Average change in attendance for continental competition vs domestic league matches, AFC CL vs UEFA CL**




**Average AFC CL attendance by round, 2016-19 & 2022.**




**クラブの潜在的メリット:**
チームの成長と選手の価値向上

仮に、ACL出場により、選手やクラブの価値が向上するという関係があれば、それはACL出場のメリットと言えますが、データによれば、そのような関係は見られていません。

まず、前のセクション「選手への影響」でも触れたように、選手が、ACLでより多くの試合に出場したとしても、(アジアを拠点とする他の選手と比較して)移籍金価値の上昇や、欧州のクラブに移籍するチャンスの増大という相関関係はないことが分かっています。

次に、たしかに、ACLで高いレベルの試合を経験することで、チーム力が向上するというメリットは、理論的には考えられますが、これも前述したように、TFGのクラブレーティングシステムによれば、ACLで敗退する可能性の高い、比較的弱い国のクラブにしか、この状況はあてはまらないものとされています。

また、前のセクション「選手への影響」でも触れたように、ACLに参加するための移動や過密スケジュールにより、国内リーグのパフォーマンスへの悪影響というデータも存在しています。

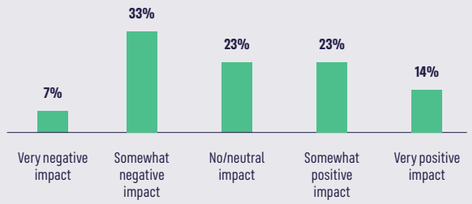
この点、浦和レッズからのヒアリングによれば、ACLとJ1リーグの両方でパフォーマンスレベルを維持するのは難しいとのフィードバックが得られています。浦和は、2022年、2019年、2017年にACL決勝に進出しましたが、そのシーズンのリーグ戦順位は、それぞれ9位、14位、7位で終えています。 2014年以降の、それ以外の6シーズンにおける、リーグ戦平均順位は4.7だったにもかかわらずです。これまでの歴史上、同じ年に国内リーグ優勝とACL優勝を達成したJ1リーグクラブは、1999年のジュビロ磐田しかありません。

つまり、ACLへの参加は、何らかの貴重な経験をもたらす可能性があるとしても、他方で、クラブの国内リーグ戦のパフォーマンスには、マイナスの影響を与える可能性が高いことが、データにより示されているといえます。これは、選手のアンケート調査からも裏付けられており、40%の選手が、ACLでのプレーが、国内リーグにおけるクラブのパフォーマンスにマイナスの影響を与えたと思うと答えています(プラスの影響を与えたと回答した選手(37%) を上回っている)。



## 選手へのアンケート調査

*What impact did playing in the ACL have on your club's performance in the domestic league that season?*



**クラブの潜在的コスト:**
アウェーで試合する場合の遠征費その他のコスト

AFCは、ACLの全ステージで、アウェーチームに遠征費の補助金を支給しています。2023/24シーズンでは、この 補助金は、予選とプレーオフステージでは4万ドル、準決勝までのグループステージで6万ドル、決勝で12万ドルとされています。これは、2022年大会に比べて33%増加した金額です。

しかし、これらの補助金は、アウェーで試合する際の実際の旅費をまかなうには足りない状況です。

この点のケーススタディとして、あるAリーグのクラブから、ACLの遠征について、実際にかかった遠征費のデータを提供いただきました。同クラブは、22人の選手と12人のスタッフを試合に帯同し、見積もりを取った三つのホテル中、最も安いホテルに宿泊しましたが、エコノミークラスの飛行機代は総額45,000ドル、宿泊費は総額50,000ドルで、これら二つの合計は95,000ドルでした。AFCからの遠征費補助金は30,000ドルでしたので、大幅な赤字だったことになります。

また、浦和レッズからも、決勝に進出した2チーム以外、遠征費補助金と賞金だけでは、費用をまかなうのに十分でなかったとのフィードバックがありました。

ACLがアジア最高峰の大会として、高いパフォーマンスが発揮できる大会となるためには、選手たちにビジネスクラスの航空券が提供するべきといえますが、現状、これを行うには、クラブが、さらなる赤字を負担しなければならないため、現実的ではないといえます。

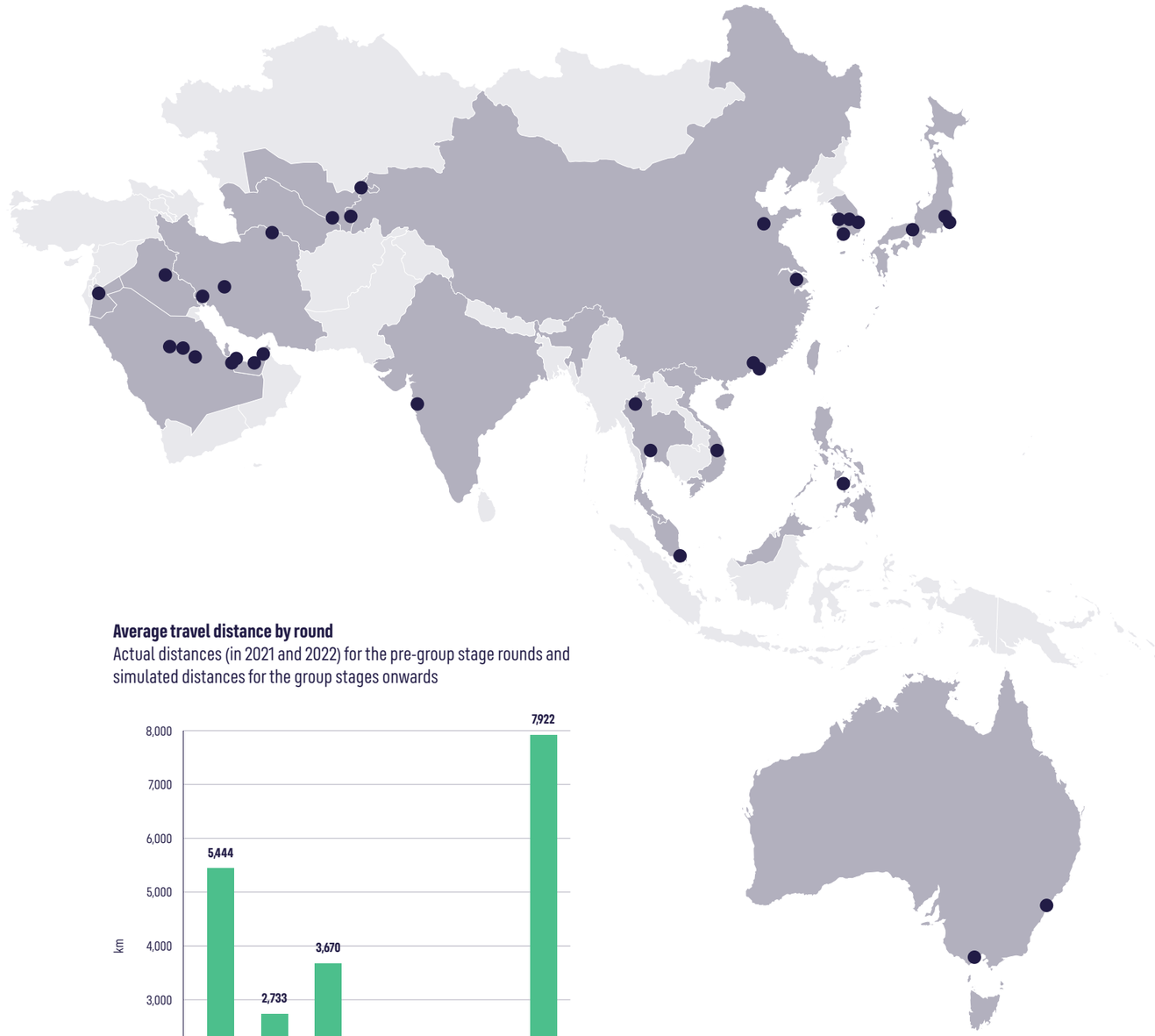
つまり、現状の補助金は、クラブが実際に負担している遠征費の規模に見合ったものとはいえない状況なのです。そもそも現在の補助金は、グループステージのすべての試合について同じ金額に設定されていますが、一般的に、東地区のクラブは、西地区のクラブに比べて、移動の距離が長く、費用も高い状況であるため、今の補助金の枠組みは、こうした現実にも見合っていません。

また、TFGの分析によれば、移動距離は、大会後半になるほど短くなる傾向があります。これは、強豪国のチーム同士が対戦する可能性が高くなるからです。そのため、トーナメントを勝ち進んだクラブは、移動1kmあたりに対して受け取る資金が多くなります（前述のように「参加費」も徐々に増える構造にある）。

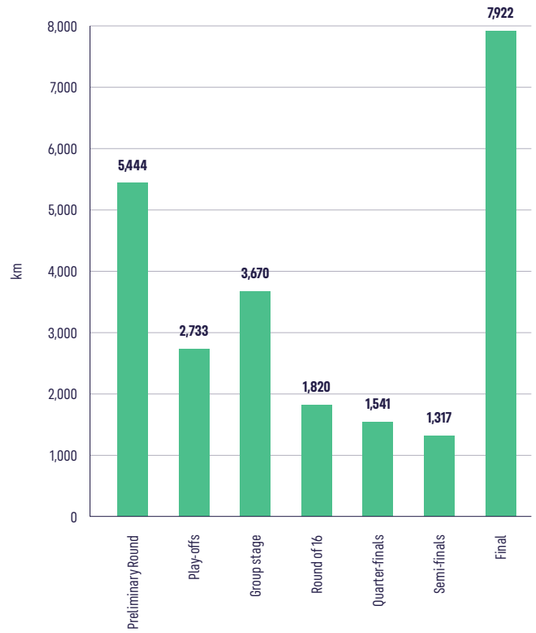
つまり、現状のACLは、早期に敗退したクラブに、大きな金銭的負担をかけているともいえます。そして、概して、このようなクラブは、よりサッカービジネスという意味では、まだ小規模、未発展の国のクラブであることが多いため、その問題性は深刻といえます。



**Geographic distribution of teams included in the 2022 competition**



**Average travel distance by round**
Actual distances (in 2021 and 2022) for the pre-group stage rounds and simulated distances for the group stages onwards



**クラブの潜在的コスト:**
ホームチームの試合開催等に伴うコスト

ACLにおいて、AFCは、各参加クラブのホーム開催試合について、そのクラブの通常の試合（国内のリーグ戦など）の開催コストに加えて、さらなる追加コストを課している状況です。

まず、試合の開催費用についてですが、ACLの競技規則によれば、試合を開催するホームチームは、AFCから派遣されてくる関係者のために5つ星の宿泊施設、車、食事、ランドリーを提供しなければならないとされています。

またホームチームは、アウェイチームのための現地経費（移動費）の負担と、アウェーチーム滞在中に連絡がとれる現地スタッフも確保しなければならないとされています。

さらに、ホームチームは、アウェイチームのために、一流のトレーニング施設をアレンジし、必要な場合は、AFCが、その施設が所定の基準に達しているかどうかの検査をするための費用を負担し、基準に達していない場合は罰金を支払わなければならないものとされています。

これに加えて、前述したように、AFCが要求する「クリーンスタジアム」提供のための費用もかかってきます。これはメルボルン・シティによれば、グループステージ1試合あたり8万豪ドル（3試合で24万豪ドル）と見積もられています。

また、これ以外にも、ホームチームは、AFCに対して、施設、用具、警備体制が、AFCが要求する所定の基準を満たしているかを、AFCに検査してもらうため、さまざまな文書と証拠写真を提出しなければならないという負担を課せられています。また、クラブは、アウェーチームを迎え入れるために必要なビザ取得の手続きも行わなければなりません。

## 結論

以上のような、クラブからのフィードバックによれば、現状のACLは、参加クラブに、かなり一方的な負担を課していることが明らかであり、クラブは、決勝に進出しない限りは、ACLへの参加を、赤字を出しながら行わなければならないというのが現実です。

また、前述したように、試合開催権を有するホームチームですら、チケット販売などから極めて限定的な収入しか得られない状況です。

そして、このように、赤字を強いられながらの参加でありながら、大会に出ない自由は与えられておらず、大会参加を辞退すれば、前述したような罰則を科せられるという状況にあります。

このようにクラブに参加を強制する構造は、UEFAチャンピオンズリーグのような大きな大会においても存在しますが、こうした大会は、参加クラブに大きな金銭的メリットをもたらしています。

つまり、ACLは、参加クラブにとって、明確なメリットがない一方で、それに伴うコストは、非常に大きなものであると言わざるを得ない状況です。特に、クラブの主要ビジネスであるリーグ戦のパフォーマンスへの悪影響という点は、参加のための「コスト」として、非常に大きなインパクトをもっているといえます。

# ACLの旧フォーマットの分析

このセクションでは、ACLの旧フォーマットの構造について分析します。すなわち、チーム数、試合数、グループ分けなどの側面を検討し、クラブの国際大会として魅力的なものとなっているかどうかについて検討します。

まず、旧フォーマットのACLの参加クラブ数ですが、もしACLを質の高い大会にするのであれば、参加クラブ数をしぼる方がいいということになり、反面で、アジア地域のサッカーの発展という観点から比較的弱いクラブを含めて多くのクラブに出場機会を与えることを重視するのであれば、そうした質の面を犠牲にするという関係になります。

また、魅力的な試合という意味では、どちらが勝つか分からないという戦力均衡の観点も重要であり、消化試合を避ける工夫も必要になります。

これまでも述べたように、AFCは、すでに、2024/25シーズンからACLを新しいフォーマットにすると発表しているため、AFC自身も、旧フォーマットの問題点を認識し、それに対応しようと考えていることがうかがわれます。ここからの分析では、まず、これまでの旧フォーマットにどのような問題があるのかについて、見ていきたいと思います。

# 戦力均衡（結果の予測不可能性）

まず、旧フォーマットについて、TFGの分析によれば、ACLは、他の大陸の国際クラブ大会に比べて、比較的、戦力均衡、結果の予測不可能性が高い大会であることが判明しています。

TFGの分析では、ACLのある試合で、優勝候補とされる強豪チームが勝つ確率は、54%と計算されました。これは、62%と計算されているUEFAチャンピオンズリーグに比べるとバランスのいい数字であるといえます。

2017年以降の実際のグループステージの試合を見ると、何ゴール差で勝つかという点に関する平均数値は、ACLでは1.5ゴールで、UEFAチャンピオンズリーグの平均の1.7を下回っています。グループリーグで、3ゴール以上の「大差」を記録した試合の割合は、ACLで20%、欧州の国際クラブ大会で26%でした。ACLのこの数字は、南米のコパ・リベルタドーレスと同程度となっています。この点、CAFチャンピオンズリーグは、これらよりややバランスがいい状況です（ACLと比べて参加チーム数は少ない）。

一般に、優勝候補とされるチームが実際に優勝する確率がそれほど高くない場合は、番狂わせが多いという意味でエキサイティングな大会にはなりますが、他方で、そのクラブが、アジアの代表として、FIFAクラブワールドカップに出場することが適切なのかという問題を生みます。

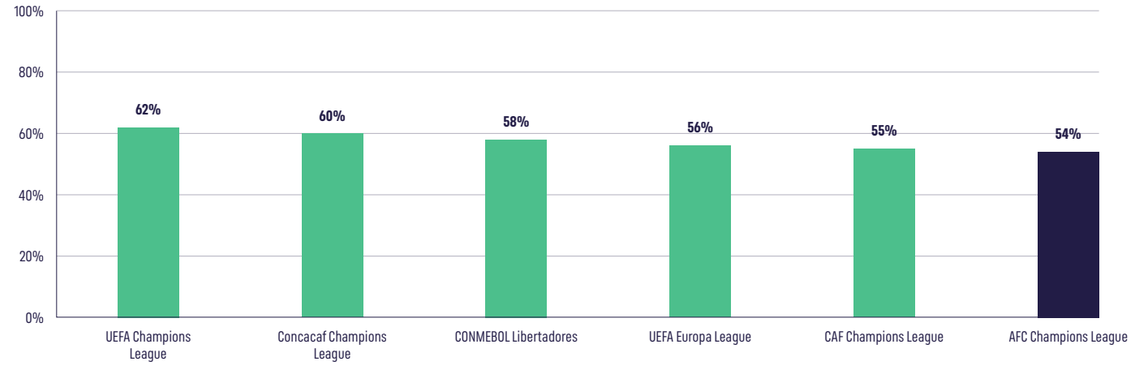
TFGの分析によれば、旧フォーマットの下では、ACLで優勝候補とされる最強チームが、実際のACLで優勝する確率は、約10%と計算されています。これはUEFAチャンピオンズリーグの26%、CAFチャンピオンズリーグの50%よりも、非常に低い数字となっています。

これを4年間というスパンにして再検討すると、優勝候補とされるチームが4年間の間に実際に優勝する確率は、UEFAチャンピオンズリーグで71%、ACLでは34%と計算されました。

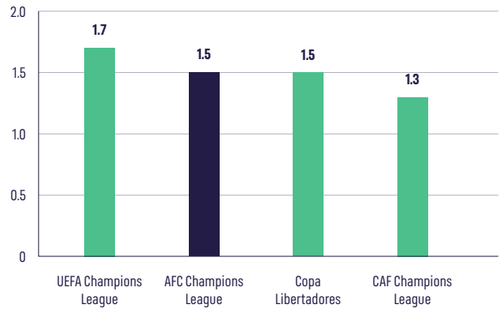
したがって、ACLの旧フォーマットは、他の大陸のクラブ国際大会に比べて、予測不可能性・戦力均衡度の高い方式といえ、このことは、いわゆる、アジア最強クラブといわれているクラブが、必ずしもFIFAクラブワールドカップに出場するとは限らないことを意味します。このことは、アジア最強クラブといわれているクラブと、それに続くレベルのアジアのチームの差が大きくないのであれば、大きな問題ではないといえます。



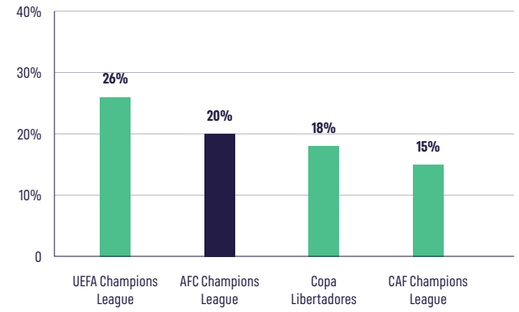
**Win probability for the favourite in individual games, across multiple continental club competitions**



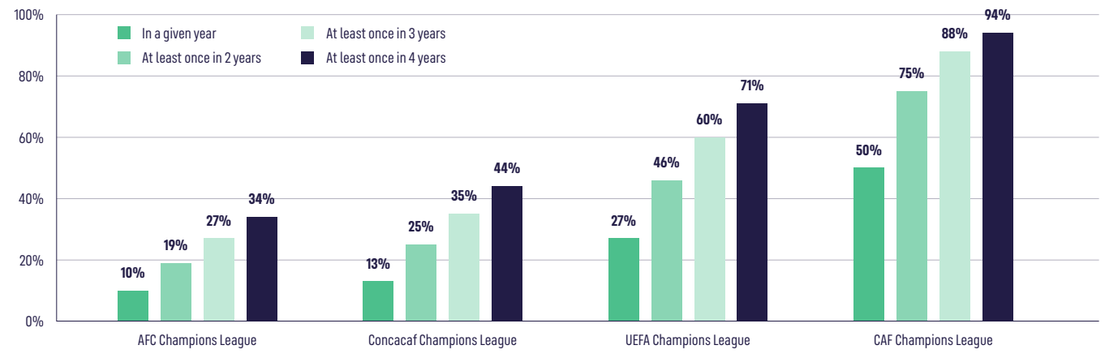

**Average winning margin comparison since 2017**




**Share of group matches won by 3+ goals since 2017**




**Likelihood of tournament favourite becoming Champion, based on TFG modelling**



# 全体的な質

ACL参加クラブの、平均的な質は、グループステージについては、他の大陸クラブ大会よりも低いものの、ノックアウトステージでは大きく向上します。

まず、TFGのグローバルクラブレーティングモデルに基づく計算によれば、ACLグループステージの平均的なクラブのスコアは394で、これは、CAFチャンピオンズリーグの399、コパ・リベルタドーレスの557、UEFAヨーロッパリーグの661、UEFAチャンピオンズリーグの780に比べてかなり低くなっているといえます。

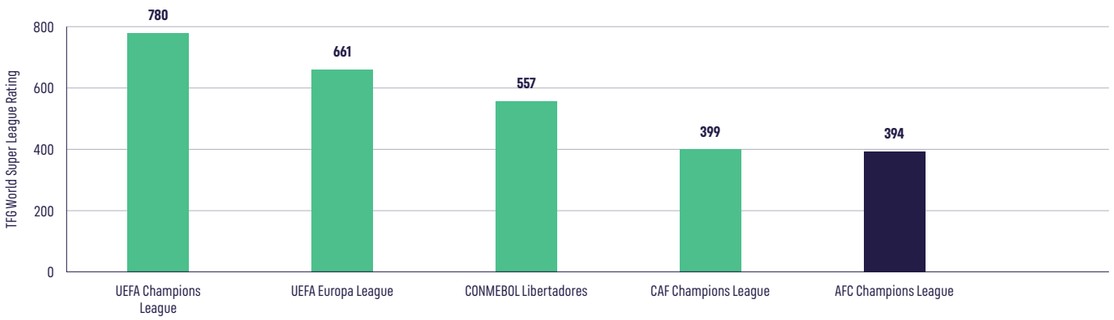
ACLグループステージにおけるこうしたスコアの低さは、地域のレベルというだけでなく、グループステージのクラブ数の多さに起因しています。例えば、CAFチャンピオンズリーグは16チームのみですが、ACLは2021年から、40ものチームがグループステージに参加しており、以前の32チームからさらに増加しています。このことは、ACLの試合の質が、競争力の低い国や強豪リーグの下位チームが多く参加していることによって薄れていることを意味しています。

もちろん、多くのクラブを参加させることで、アジアサッカーの発展にプラスの効果をもたらすという発想には、一定の合理性があります（ACLの下には、AFCカップというもう一つ下の階層の大会もありますが、それはここでの検討対象からは除外します）。

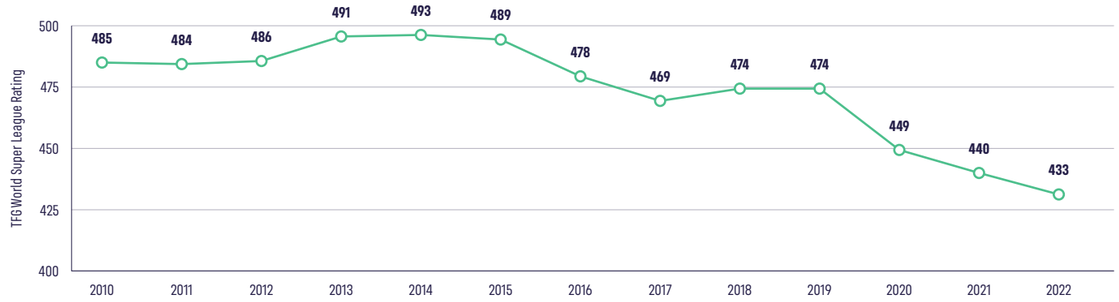
とはいえ、こうした参加クラブ数の増加により、前述したように、旧フォーマットの試合のレベルは、日本、韓国、サウジアラビアの国内リーグに劣る質になってしまったのも、また事実です。

TFGの分析では、アジアには確かに、強豪クラブがあることがわかっており、各大会のベスト8チームの強さを見ると、ACLの平均クラブレーティングは514で、CONCACAFチャンピオンズ・リーグ (495) とCAFチャンピオンズ・リーグ (487) を上回っている状況です。また、ACLの準々決勝進出チームは、イングランドのチャンピオンシップと同レベルで、コパ・リベルタドーレス (557) のグループステージのクラブの平均レベルを大きく下回っていない状況です。

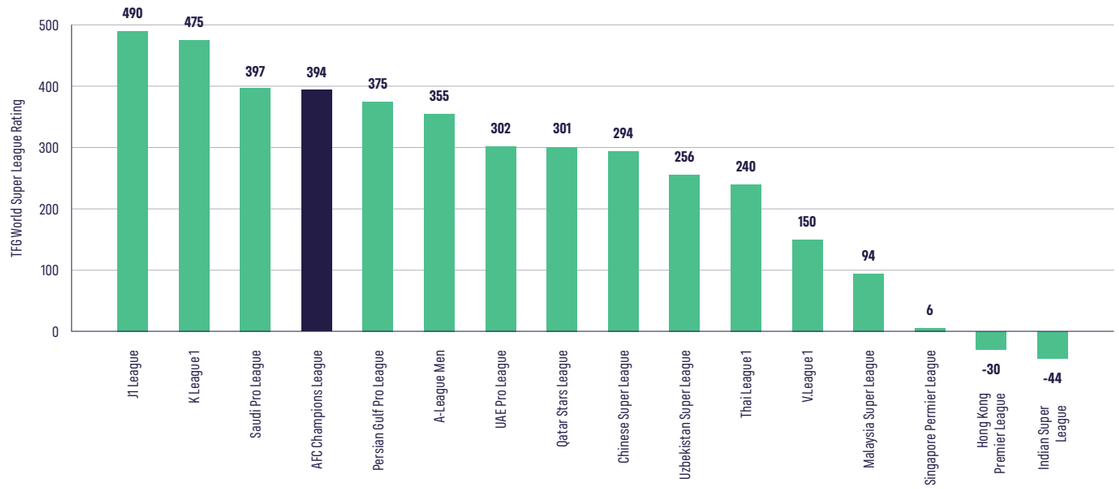
**Average quality of teams in the group stage of continental competitions**



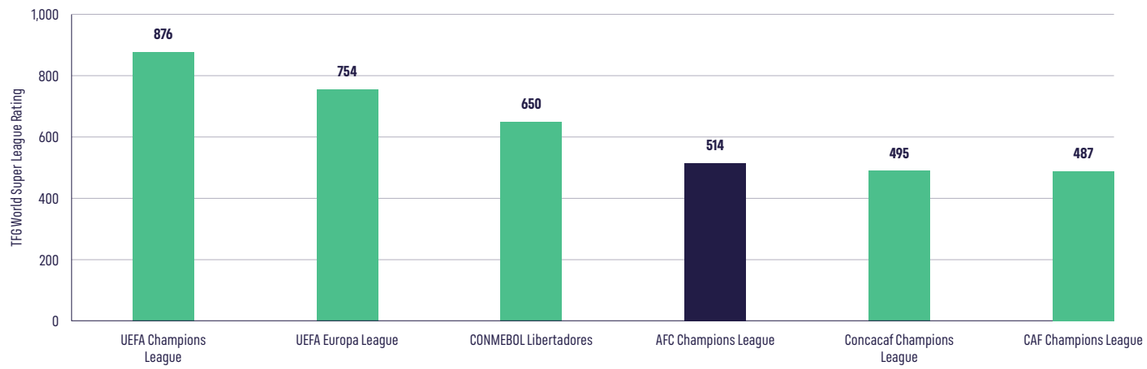

**Average quality of group stage teams in the AFC CL, 2010-2022**




**Average quality of Asian domestic leagues vs AFC CL, 2023**




**Average quality of teams in the quarter-final stage of continental competitions**



## トーナメント構成

チーム数、グループの規模、地域の分け方、決勝トーナメントのレグ数、開催地に関する取り決めなど、大会構成の設計にはいくつかの選択肢がありますが、この点について、旧フォーマットがどうであったかを分析します。

ACLの形式は、コロナの影響で変更を余儀なくされ、2020年、2021年、2022年には、伝統的な決勝トーナメントのホームアンドアウェイ方式が、集中開催方式に変更されましたが、2023/24シーズンからは、元のホームアンドアウェイのスタイルに戻っています。

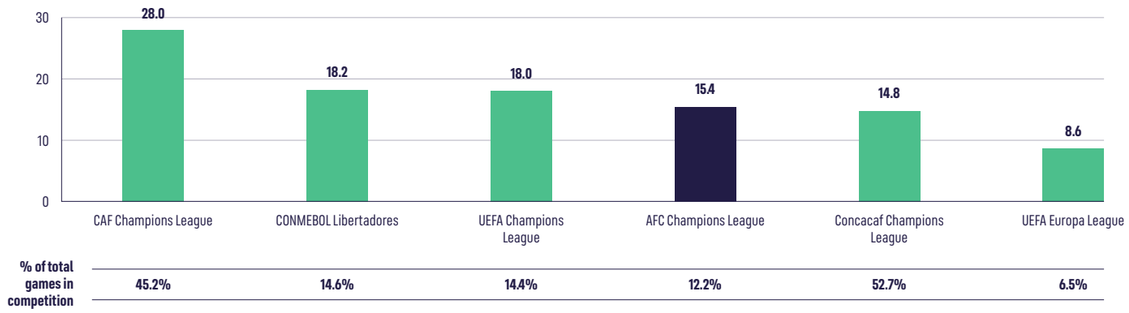
2023/24年シーズンでは、参加クラブが、西地区と東地区に均等に分割され、それぞれ4チームからなる10グループによって構成されています。ホームアンドアウェイのグループ内総当たり戦の後、10グループの勝者と、各2位の中からベスト3チームが、ベスト16に進出する形となっています。ノックアウトステージはホームアンドアウェイで行われ、東西のベストチームによる決勝まで、地区ごとに分かれて戦う方式となっています。

グループの数が多く、かつ、地区が二つに分かれるため、強豪クラブ間の総試合数の割合は少ない状況です。TFGによると、この形式では、大会参加クラブ中、強豪クラブとされるトップ10クラブ同士が対戦する試合数の平均は15.4試合で、全体の12%にすぎません。なお、他の地域では、トップ10クラブ間の試合数の割合は、UEFAチャンピオンズリーグ (14%) 、コパ・リベルタドーレス (15%) の2つがわずかにACLより高く、CAFチャンピオンズリーグ (45%) とCONCACAFチャンピオンズ・リーグ (53%) ではるかに高いという状況です。

決勝まで地区を分けることは、移動の必要性を最小限に抑えるという利点があるといえます。もう1つの利点として考えられることは、地理的により近い国から来た対戦相手との試合に、ファンが比較的強い思い入れを持ち得るということですが、西地区vs東地区のクラブの試合自体がサンプルとして少ないため、これを利点として評価できるかどうかは難しいところです。
ちなみに、アジアの国際試合という点では、同じ地区内 (西または東) 同士の2カ国間の試合は、地区をまたがった試合より平均して7%多い観客を集めている状況です。

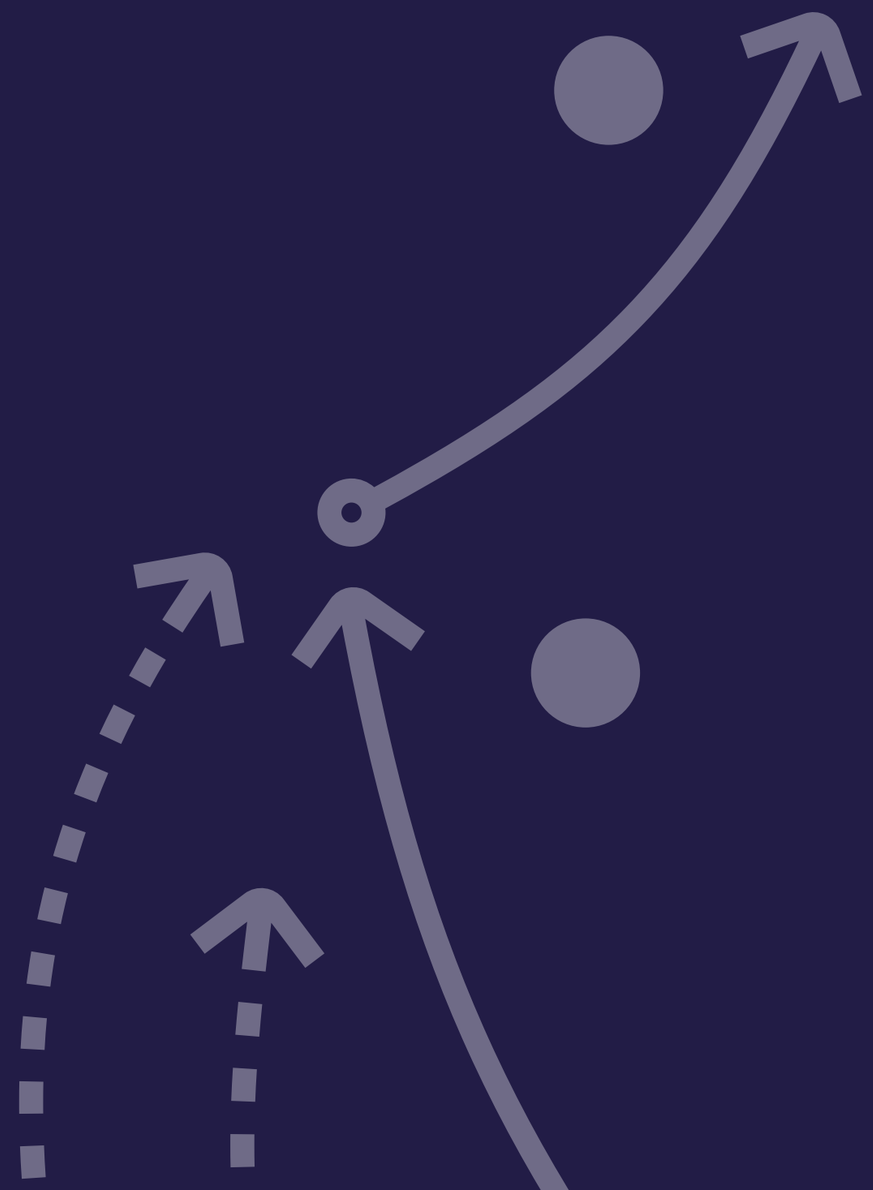
なお、昨今、サウジアラビアのクラブが、著名選手に多額の投資をしていることは、ACLの価値向上という意味でプラスともいえますが、地区が分かれているために、こうしたプラス面は、東地区のクラブにとっては、限定的なものにとどまります（決勝以外に対戦しないため）。

**Average number of games between top 10 strongest teams in the competition, across multiple continental club competitions**




**Average attendance in AFC international fixtures since 2013**

# 新フォーマットの分析



## 背景

2022年12月、AFCはACLを含むクラブの国際大会の大幅な改革を発表しました。これまでのACLとAFCカップは、2024年から、76クラブが参加する三つの階層からなる大会に変更されます。

三つのティアは、AFCチャンピオンズリーグエリート (ACLE)、AFCチャンピオンズリーグ2 (ACL2) 、AFCチャレンジリーグ (ACGL) とされ、また、2024/25シーズンから女子についても、12チームからなるAFC女子チャンピオンズリーグが開催されると発表されています。

なお、ACLEの優勝チームには1200万ドル、準優勝チームに対しては600万ドルの賞金が支払われることも発表されています。これは旧フォーマットの賞金の3倍に相当します。
それ以外の、ACLEや他の大会の賞金などの詳細は、まだ明らかにされていません。

また、これら大会について、外国人選手枠が撤廃されること、各加盟協会別の参加チーム数の決定に新たな枠配分ルールが用いられることもすでに明らかとなっています。

## 本セクション

前セクションでは、2023/24年に終了する旧フォーマットを分析しましたが、このセクションでは、新フォーマット、旧フォーマットの課題をどれだけ解消するものになっているかなどについての分析を行います（なお、ACL2とACGLは、今回の検討の対象から外しています）。

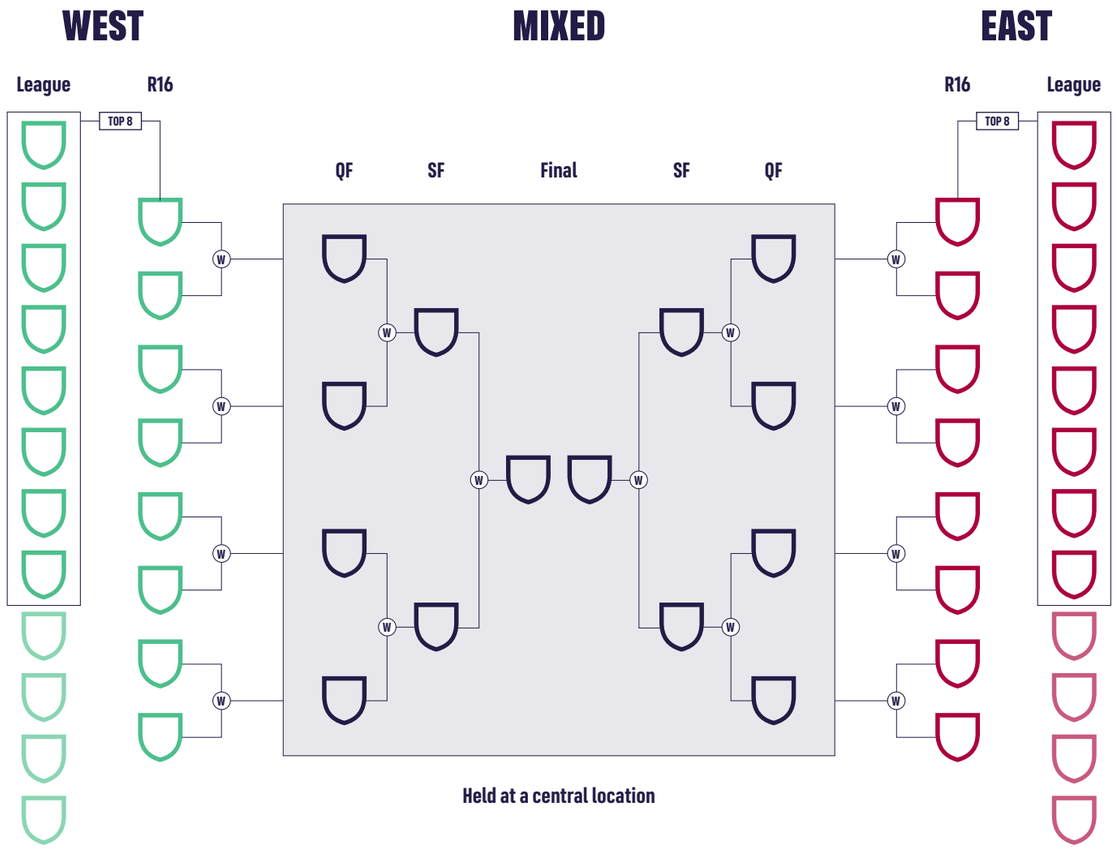


# 新しい大会の構成

新フォーマットのACLEは、西地区と東地区に、均等に分かれた合計24クラブが参加します。各地区の12クラブは、旧大会のグループステージに代わるリーグステージを戦い、ホーム4試合とアウェイ4試合で、8チームと対戦することになっています。これは、各クラブがリーグに属する全クラブと対戦するわけではないことを意味します。

そして、各リーグの上位8チームがノックアウトラウンドに進出し、そこでまず2レグのラウンド16の戦いが行われます。その後、勝者8チームが一ヶ所に集まって、集中開催のトーナメントを戦います。つまり、ホームアンドアウェーではなく、一発勝負になります。

このフォーマットにより、各参加クラブは、最低でも8試合を戦うことになり、従来の6試合より増えることになります。しかし、参加チーム数が24に減ること、決勝ラウンドは1試合で勝敗を決するようになることから、大会の総試合数は130試合から119試合に減少することになります。



# 試合の質と競争力のバランス

従来のACLの40クラブに対し、ACLEは出場クラブが24クラブに限られるので、当然のことながら、ACLEのクラブの平均的な質は高くなるものといえます。

TFGのグローバル・クラブ・インデックスに基づく分析では、このフォーマットの変更により、ACLEの試合の質は、CAFチャンピオンズリーグを上回ることになります。また、各国リーグとの比較では、サウジアラビアのリーグ (ただし2023年以前の評価) を上回ることになり、J1リーグやKリーグ1にはわずかに及ばないというレベルのものになります。

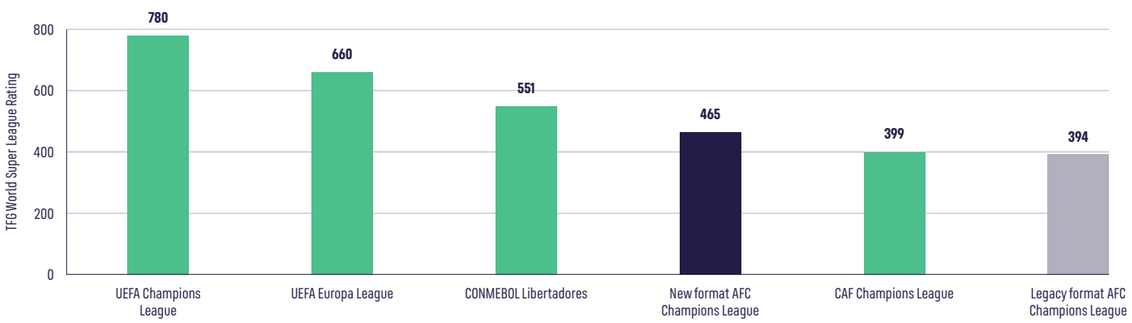
個々の試合の質は大幅に向上すると見られます。各地区の上位チームは、ノックアウトラウンド前に対戦できることになり、アジアの上位10クラブは、リーグステージで平均16.9試合を戦うことになります。これは、従来のグループステージが平均1.9試合だったことを考えると、大きな変化といえます。

こうした試合の質の向上の一方で、優勝候補にとってのリスクは減少することになります。旧フォーマットのグループステージでは、グループの「優勝候補」２チーム間の試合は、絶対に勝たなければならない緊張感の高い試合でしたが、ACLEのリーグステージでのベスト2チームの試合は、それほどリスクの高くないものになります。また、8ラウンドが終了する前に、トップ8またはボトム4の順位が決まってしまう可能性があるため、消化試合が生じやすいフォーマットともいえます。

また、戦力均衡度、勝敗の予測不可能性は、少しだけ高くなると予測されます。これは、リーグステージのチームが、旧フォーマットでのグループステージのチームより均等にマッチングされるためであり、これにより、各試合でいわゆる本命チームが勝つ確率は、従来の54%から52%になると見込まれます（従来のグループステージでは、シード権を決定する過程がバランスを欠いているという問題があった）。

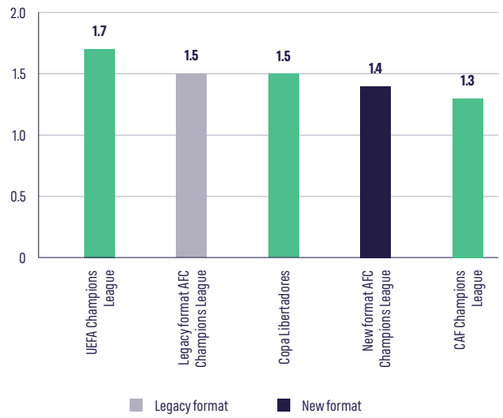
とはいいながらも、TFGのシミュレーションによると、新フォーマットでは、総合的に最も優れたチームが大会で優勝する可能性が、10.1%から12.8%にやや上昇すると計算されています。

**Average quality of teams in the group stage of continental competitions**

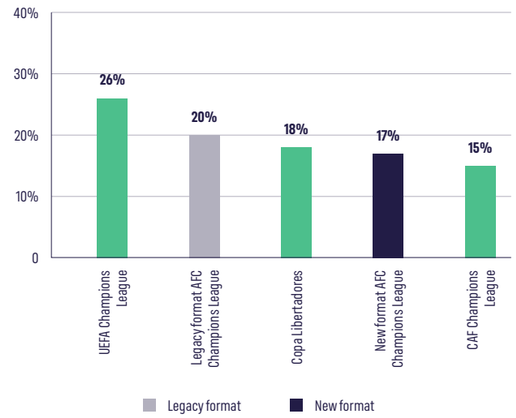



**Win probability for the favourite in individual games**

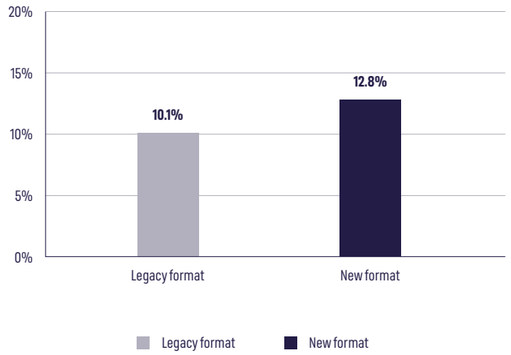
**Average winning margins**



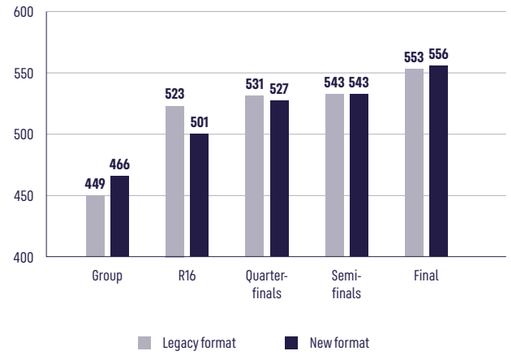

**Share of group matches won by 3+ goals**




**Likelihood of the tournament favourite becoming Champion, based on TFG modelling**




**Match quality** (by average TFG team rating)




**Average number of matches between 'top 10' teams**

**Average quality of Asian domestic leagues vs AFC CL, 2023**

## クラブ・選手にとっての負担

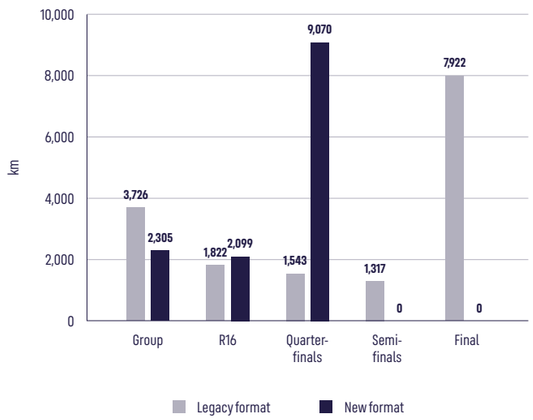
新フォーマットによる、クラブと選手の負担の増減という点を分析してみると、どのクラブも少なくとも最低8試合をプレーすることになり（旧フォーマットの6試合から増加）、そのうち半分はアウェイになるため、負担は大きくなるといえます。

ただ、TFGのシミュレーションによれば、各遠征の平均移動距離はグループ/リーグステージで短くなると予想されます。これは、同じ国のチームが同じ地区リーグで対戦する可能性があることが原因です。

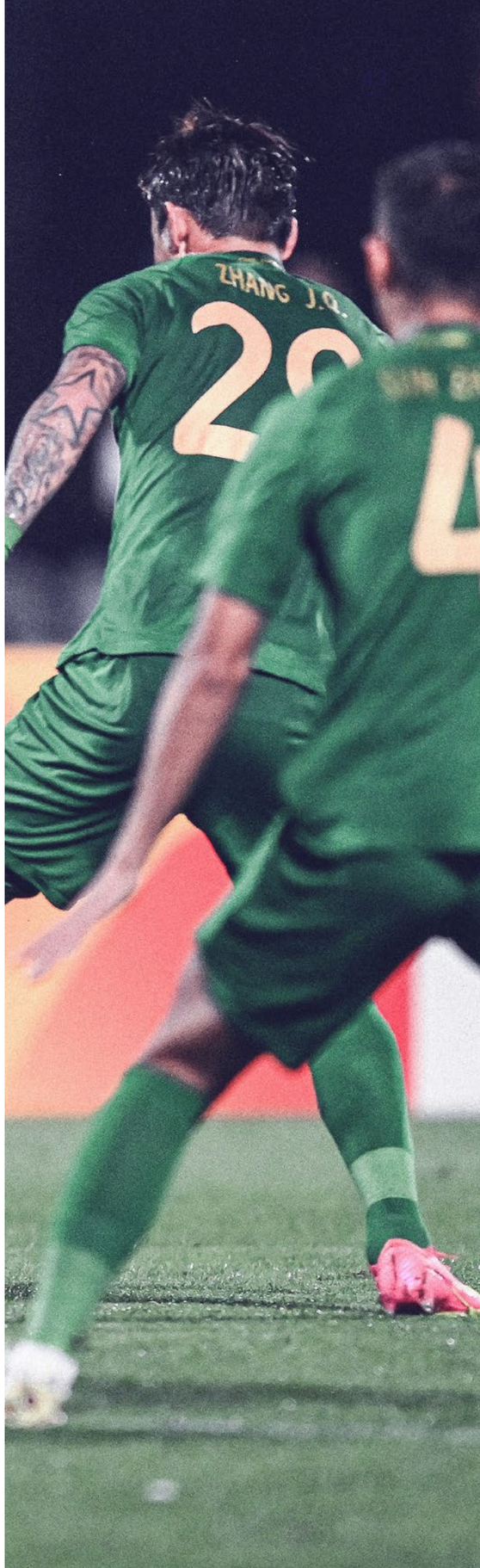
そして、集中開催方式によって行われるファイナルラウンドのトーナメントは、開催場所によっては、多くのチームが長時間のフライトを求められるものの、そのあと準決勝や決勝に勝ち進んだ場合の移動がなくなるというメリットがあります。

ただし、決勝に進出したチームは、最大2週間の現地滞在が必要になるため、居住国、家族と離れる時間が長くなるという問題と、国内リーグの日程への影響という問題が生じます。つまり、必然的に連戦が増加し、選手がクリティカルゾーンでプレーする時間が増えるという影響が生じます。

**Projected average travel distances for ACLE***




*For this analysis, we have assumed Saudi Arabia as the centralised location for the QF stages onwards in the new format.



## 金銭的な影響

新フォーマットは、旧フォーマットより、収益性の高いものになる可能性があります。その理由としては、以下の2つが考えられます。

1つは、試合の質が高くなることです。参加チーム数が40から24に減ることは、比較的大きなマーケットを持つ国で、より多くの試合が行われることを意味します。日本、韓国、サウジアラビア、イラン、中国、カタール、オーストラリアのチームが参加する試合の割合は、わずかですが、上昇することが見込まれます。

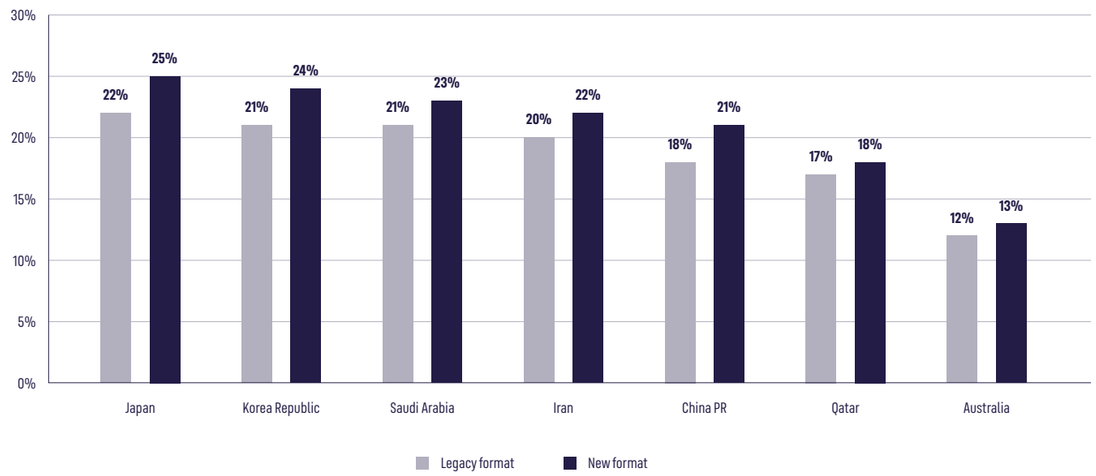
従って、コストコントロール次第によっては、1試合あたりの収益を増やすことができる可能性もあります。

もう1つとしては、大会の終盤が、集中開催方式のトーナメントになることにより、開催権を、放送権、スポンサーなどとともにパッケージ化して、入札制により販売することができる機会が生まれることです。

集中開催方式により行われるトーナメントでは、最大7つの西地区対東地区の試合が行われることになり、旧フォーマット (2レグの決勝) の2試合から増えることになります。ただし、旧フォーマットと異なる点は、これらの試合の商業的権益がホームチームではなく、AFCに属することになるという点です。

ということは、AFCは、こうした変更により、従来、ホームアンドアウェーで行われていた際に、ホームチームに与えられていた商業的権益を補って余りあるだけの分配を、関係クラブに行う必要があるということになります。この点についてAFCがどのような取扱を行うかはまだ明らかではありませんが、旧フォーマットで、準々決勝、準決勝を開催していたホームクラブは、平均観客動員数2万人の試合を行っていた、つまり、収益性の高い試合の開催権・商業的権益を持っていたことを考えると、新フォーマットにおける集中開催で、AFCが得る新たな利益は、適切な形で、関係クラブ(そして選手)に還元されなければならないといえます。

**Share of all matches featuring teams from key markets**






# ステークホルダーへの影響

## 選手への影響

このレポートでは、ACLへの参加は、選手にとって、過密スケジュールと長距離移動という大きな負担を伴うものであることを、データによって指摘しましたが、この問題点は、新フォーマットにもあてはまるものといえます。

新フォーマットでは、各クラブの試合数は、さらに2試合増加します。ファイナルラウンドの集中開催方式により、最終4チームの総飛行移動時間は減少すると思われますが、前述したように、選手は、最大2週間を、居住国、家族から離れて過ごす必要があり、国内リーグ戦などの過密スケジュールという問題にも直面します。

また、現状、新フォーマットによって、選手が得られるスポーツ上のメリット、金銭的なメリットが増加するかどうかは、不明といわざるを得ません。AFCは、上位2チームの賞金を3倍にすると発表していますが、それ以外のクラブへの支払い金額が増えるかどうかは明らかになっていません。前述したように、クラブに対する十分な支払がなければ、選手への支払を増やすことも不可能です。この点、例えば2023年 FIFA女子ワールドカップがそうであったように、FIFAのような大会主催者が、参加選手に対する賞金の分配割合・金額をルールで定め、必ず、選手に対して一定の金額が払われる仕組みを実現することも考えられますが、そのような方式を採用するかどうかもまだ明らかではありません(そもそもAFCではそのような形で分配を行った実績がない)。

もとより、新フォーマットで試合の質が上がれば、選手の経験値が増し、選手としての価値が上がる可能性もありえますが、これも現状では不明です。

## クラブへの影響

このレポートでは、ACL参加クラブは、ほとんどが赤字で参加していることを明らかにしていますが、新フォーマットでも、この問題が解消されるかどうかは、まだ明らかになっていません。

旧フォーマットでは、クラブは3試合から7試合をホーム開催することができたわけですが、新フォーマットでは、ホーム開催の試合数は、4試合または5試合ということになります。これらの試合の対戦相手は、旧フォーマットより強い対戦相手になる可能性が高いものの、平均的には、負けるリスクが低い試合になると分析されます。

そして、新フォーマットでは、収益性の高いノックアウトラウンドがAFCの権益となり、ホームチームが開催権を失うことになります。従って、ホームチームにとっては、相対的に収益性の低い試合の開催機会のみが増える結果となる可能性があります。

また、選手と同様に、クラブも、ACL出場に伴う長距離移動や、過密スケジュールという問題を抱えており、クラブの国内リーグ戦でのパフォーマンスへの悪影響という問題が、旧フォーマットから存在していますが、新フォーマットも、こうした課題を解決するものとは、現状考えられません。

「クリーンスタジアム」のように、クラブに多大なコストを課すルールについても、新フォーマットがどう対処するか、現状では不明です。

試合の質が高くなることで、クラブとしてのサッカー水準の向上といった恩恵を受ける可能性はありますが、これも現状では不明です。西地区、東地区の対戦が増えることで、昨今のサウジアラビアリーグのようなスター選手を抱えるクラブと、東地区のクラブとの対戦機会が増える可能性はありますが、前述のように、新フォーマットでは、こうしたクラブの開催権はAFCが有することになるので（集中開催方式のため）、こうした試合の開催権益を東地区のクラブが持つことはないことになります。

## AFCへの影響

一方で、新フォーマットは、AFCに対しては利益をもたらす変更といえます。

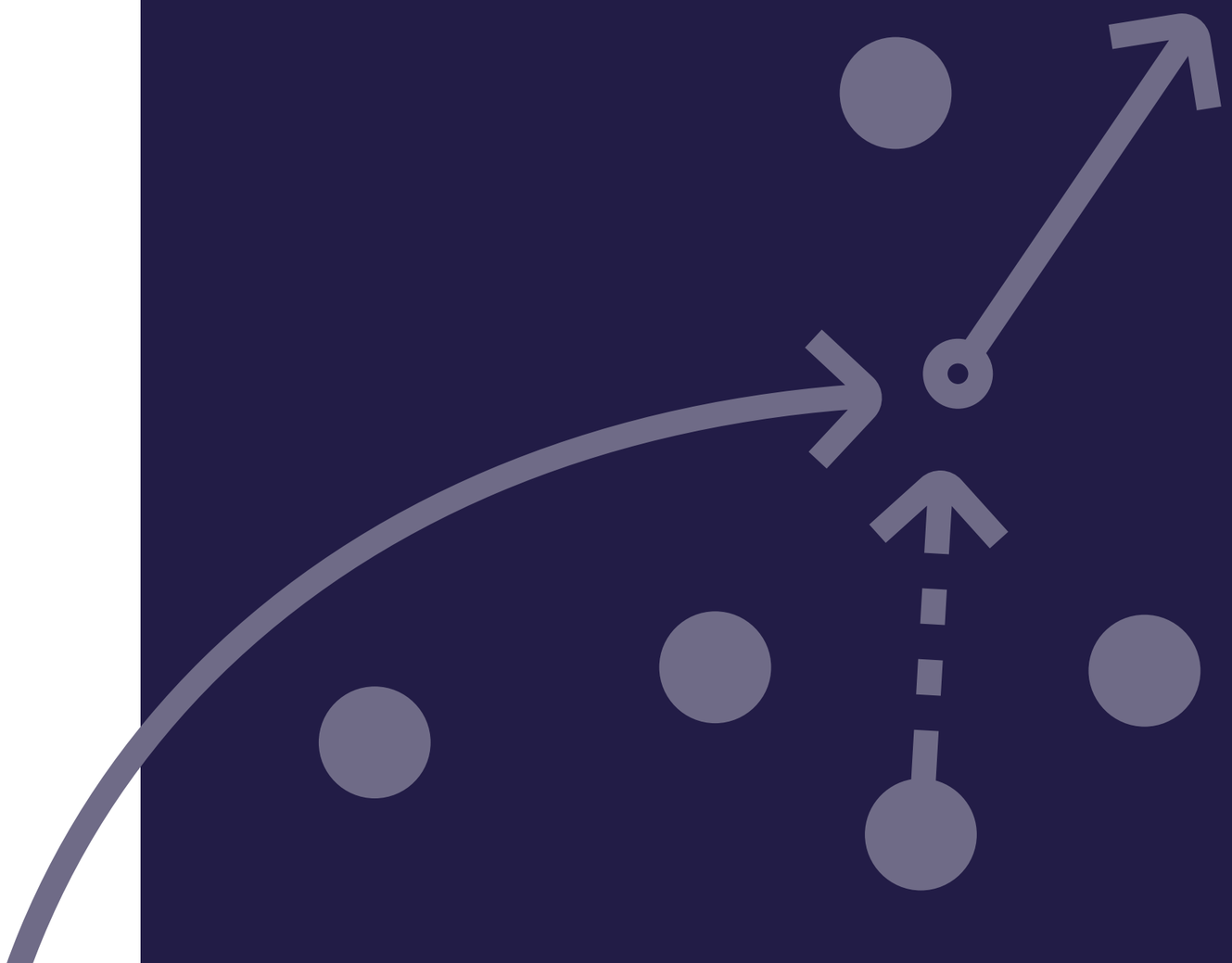
チーム数を40から24に減らすことで、大会の質が高くなり、AFCが販売する放送権やスポンサーの価値が高まる可能性があります。

また、最終ラウンドを集中開催方式によって行うことで生まれる権益がAFCに帰属し、その反面で、従来、そうした試合の開催権を持っていた各クラブの商業的権益は失われることになります。

従って、AFCには、このように増加した価値を、適正に関係者に分配する必要があるといえます。すでに、優勝と準優勝の賞金を3倍にすると発表していますが、詳細はまだ発表されていない状況です。



# 今後の改善方法



以上のように、ACLは、ほとんどのクラブと選手に、十分な価値を提供していない状況です。つまり、クラブ、選手にとって、ACLへの参加は、コストの負担が大きく、かつ、コストを上回るだけのメリットは得られていない状況です。

そして、新フォーマットによっても、現状発表されている内容を見る限りは、こうした問題が改善されるとは考えられない状況です。

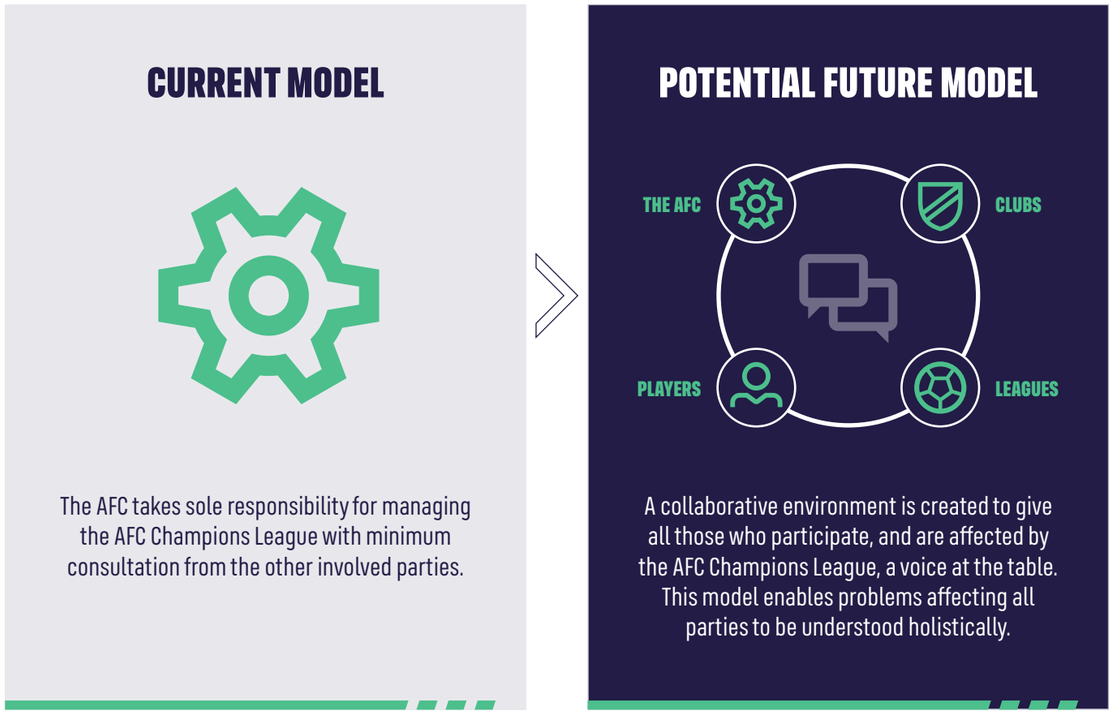
なぜ、このような状況が生じているか、それは、AFCの意思決定方法に大きな原因があります。AFCの意思決定に関与することができるのは、各国サッカー協会のみで、国際マッチカレンダー、試合の開催方式などの決定について、クラブ・リーグ、選手といったプロサッカーの重要なステークホルダーは、その意見を意思決定過程に直接反映させる方法を持っていません。

アジアのプロサッカー発展のためには、重要なステークホルダーが協力し合う必要があります。つまり、今こそ、こうした問題について、今までのような、トップダウンの意思決定ではなく、パートナーシップ型の意思決定、具体的には、リーグ・クラブ、選手といった重要なステークホルダーを巻き込んだ形での意思決定を行う構造に変えていくべきです。

したがって、本レポートの、主な提言としては、以下のものとなります。

**選手、クラブ、リーグ、AFCの間に真のパートナーシップを確立し、すべての利害関係者に結果をもたらす最高の国際クラブ大会を作っていく**

**Proposed partnership model between the players, clubs, leagues, and the AFC**



# ケーススタディ:

## 2023年 FIFA女子ワールドカップ

2023年にオーストラリアとニュージーランドで開催されたFIFA女子ワールドカップは、こうしたパートナーシップ型のアプローチが成果をもたらした、素晴らしい成功例だったといえます。

FIFAは、女子ワールドカップのあり方を考える上で、選手の意見が必要と判断し、FIFPROに意見を求めた結果、以下の改革が実現されました。

- 賞金プールの拡大
- 賞金額のうち、予め決められた額を選手に直接支払うことのルール化
- 大会開催環境の向上、具体的には各国が連れて行くことができるスタッフの数や、その他現地のプレー環境の向上

こうした改革により、2023年のFIFA女子ワールドカップは、これまでで最も成功した女子ワールドカップとなりました。サッカーの質、特に下位チームの質は、期待を大きく上回り、これまで以上にファンの関心を集めることとなりました。FIFAの発表でも、投資を増やしたにもかかわらず、それに見合っただけの収益が得られたという点が示されています。

このような事例は、国際大会のあり方について、AFCなどの地域連盟が、パートナーシップ的なアプローチを採用すること、クラブ・リーグや選手の意見を反映していくアプローチを取ることが、結果的には、全ての関係者にメリットとなることを示しているといえます。

FIFPRO

*FUTURE*

*RESPECT*

*PARTNERSHIP*

*PROFESSIONALISM*

*GOOD GOVERNANCE AND FAIR PLAY*

***Power to the players.***

PFAM PROFESSIONAL FOOTBALLERS ASSOCIATION OF MALAYSIA

appi Indonesian Players' Union

NZPFA New Zealand Professional Footballers' Association

PFA

KPFA

JPFA JAPAN PRO-FOOTBALLERS ASSOCIATION

FPAI FOOTBALL PLAYERS ASSOCIATION OF INDIA ESTD. 2006

الرابطة القطرية للاعبين QATAR PLAYERS ASSOCIATION